

日本の4大新聞における皇室報道の比較研究
—皇太子さまの「人格否定」発言を事例として—

木村洋二・ハンナロン=チャーン・板村英典

A Comparative Study of the Japanese Major Newspapers Reporting
the Unexpected Statement of Prince Naruhito
Concerning the Royal Family

Yohji G. KIMURA, Charn HANNAROHG and Hidenori ITAMURA

Abstract

In newspapers, the positive or negative weight of value (“semio-weight”) of an event is expressed by the positioning of the article, the scale of headlines and the selection of key words. This paper analyzes the differences of expressions reporting the unexpected statement of Prince Naruhito about the health of princess Masako. Two scales measuring the reverence for the royal family were developed in consideration of the positioning of articles. One is the NWP (News Weight Pattern), the other is the SRW (Startline Reverence Weight). Semio-graphic analysis was applied to analyze the differences between four major Japanese newspapers, as well as newspapers of the Kingdom of Thailand. Considerable differences of the reverence weight for the Royal family were observed in terms of NWP and SRW.

Key words: Prince, Royal family, newspaper, headline, content-analysis, socion

抄 録

2004年5月10日の記者会見における皇太子の「人格否定」発言を日本の4大新聞がどのように報道したか、荷重グラフを作成して比較分析した。はじめに、同じく王室を戴くタイ国における王室報道を概観した。記事の割付けと面積をグラフィカルに表現するパターングラフ(NWP)を開発するとともに、「敬意度」を測定するために記事の開始段数を指標化(SRW)した。タイにおいてはすべての王室報道が第1段から掲載されるのに対し、日本の新聞にはかなりのバラツキが見られた。産経、読売が「敬意度」の得点が高く、朝日、毎日の得点が低いことがグラフ表示から明らかになった。

キーワード：皇太子 人格否定発言 皇室報道 見出し 新聞 内容分析 ソシオン

概要

2004年5月10日、欧州訪問前の記者会見において皇太子殿下は雅子妃に対する「人格を否定するような動き」があった、と発言された。本稿¹はこの「人格否定」発言に関連して、(A)朝日・(S)産経・(M)毎日・(Y)読売の各新聞が、どのような荷重(重みづけ)報道²を展開したかを実証的に分析する。

第I章では、タイの新聞における王室のあつかい方を取りあげ、「王室」に対する「敬意」の表現法を検討し、記事が始まる段の「高さ」と見出しの「敬語」に注目する。記事の割付け位置の「高さ」が敬意の度合をあらわすと仮定して、その度合(荷重量)を視覚的に表現する手法を開発する。

第II章では、「人格否定」発言に関する報道記事の大きさ、記事の開始位置、見出し中の敬語表現(「ご」)に注目し、各要素を定量化する。得られたデータから「時系列荷重グラフ(Diachronic graphs of Semio-Weights)」と、「開始段荷重グラフ(Start-line Reverence Weights [SRW])」を作成し、各紙の特徴を分析する。

第III章は、「人格否定」発言に関連する記事データを分析し、各紙の皇室に対する報道

1 本稿は、タイからの留学生であるチャーン・ハンナロンが2005年度の関西大学大学院社会学研究科に提出した修士論文(Hannarong, 2005)をもとに板村と木村が加筆修正したものである。

ハンナロンは来日してから、皇室や宗教、両国とも植民地支配をされなかったことなど、日本とタイには共通点が多くあることに気づいた。しかし、その一方で多くの違いを感じた。たとえば、日本には寺院の数に対して僧侶が少なく、街や学校で国旗を見かけることがほとんどない。また、タイでは毎日王室に関する報道が行われるが、日本では天皇誕生日であってもテレビや新聞ではほとんど報道されることはない。同じ王室(皇室)をもつアジアの国であるにもかかわらず、日本とタイの間でこのような違いがあることに違和感を覚えた。このことがきっかけで、筆者らは日本のメディアにおける皇室の扱い方に関心を持ち、日本とタイの皇室報道の比較研究を始めた。

2 「荷重」(Semio-weight)は、情報を授受するソシオン(人間あるいはその集団)が、表象やコミュニケーション・チャンネルに「備給」する「予期ポテンシャル」で、デキゴトの重要性とその性質に応じて、好悪、賛否から信一不信といった分極性をしめすと仮定される。この「荷重」の大/小と正/負の分極によって、伝えられるデキゴトの重要性や信憑性の程度、つまりリアリティの度合いが、受け手においてあらかじめ誘導的に決定されると考えられる。(木村他 2004: 91)

また、社会的コミュニケーションにおける「情報」は、伝達される「内容(メッセージ)」とその「荷重(信憑性)」の2つの要素から成り、次のようにあらわすことができる。

$$\text{情報} = \text{メッセージ} \times \text{荷重}$$

$$(\text{Information} = \text{Message} \times \text{Weighting})$$

一般に、受け手の意識は語られる「内容」を指向するが、その内容の「リアリティ」(信憑性や重要度)は、この「荷重」によって無意識のうちに(しばしば内容に優先して!)伝達され読みとられる。(木村他 2004: 91)
本稿が分析しようとするのは、新聞紙面を張る無意識の次元であるといつてよい。記事の面積や見出しの大きさ、文字数、写真、記事の割付け位置などが、読者の無意識を構成する「荷重」要素と考えられる。

姿勢を検討する。「記事開始段荷重グラフ（Start-line Reverence Weights [SRW]）」より得た開始段数のそれぞれに評価点数をあたえて、「開始段荷重指数（Start-line Reverence Weights Index [SRWI]）」を算出する。SRWIは皇室に対する「敬意の度合い（敬意度）」をあらわすと考えられる。

最後に、第IV章では、本稿の分析で得られた知見をもとに天皇・皇后両陛下の「サイパン慰霊」（2005年6月25日）に関する報道を検証し、今後の課題を展望する。

I 序論

I-1 タイにおける王室の報道

タイ王国の国民にとって国王の存在は非常に重要である。タイ国政府観光庁の発行するガイドブックでは、国王は以下のように紹介されている。

タイ王国がつくられた13世紀以来、タイに王がない時代はない。優れた数多くの王のもとで、タイは西欧列強の植民地支配からも社会主義の拡大からも独立を守り、東南アジア諸国のなかでは際立って政治・経済そして社会の安定した国に発展してきた。現在のプミポン国王は1946年に即位し、以来、地方開発や環境問題に力を注いで、国民の厚い信頼と尊敬を集めている。「国王のためなら私も頑張る」というのがタイ人の口癖。これは、50年以上にわたる国王の姿を見てきた国民なら、誰しも思うことだ。（タイ国政府観光庁 2004：6）

タイの国内では、国王や王族の写真が載せられているカレンダーをいたるところで見つけることができる。そして、それらは日本の神棚のように高い位置に飾るのが一般的であり、それはタイの人々の国王に対する尊敬の念をあらわしているといえる。このような王室に対する扱いは、タイの新聞についても同様である。

タイの新聞に注目すると、国王や王族に関連する記事は、常に高い場所に配置されている（図1.1）。紙面の枠で囲った部分に、国王の写真と王室関連の記事が掲載されている。このように、タイの新聞メディアでは、王室関連の記事を他のどの記事よりも高い場所に配置して報道することで、王室に対する「敬意」をあらわしている。つまり、記事を配置する「高さ」は、王室に対する「敬意の度合い」を示していると考えられる。



Matichon



Manager



Bangkokbiznews



Siamrath



Dailynews



Thairath

図1.1 タイの新聞における王室報道

また、タイにおいて王室に関する報道を行う場合には、たとえどのようなメディアであっても、王室専用の言葉（＝「王室用語」）が使用される。タイの新聞の見出しや記事では、この「王室用語」が必ず用いられている。

このようなタイの王室に関する新聞報道を参考に、日本の4大新聞における「皇室報道」を、「記事の高さ」と「見出しの敬語」という観点から分析し、日本の新聞における「皇室」に対する「敬意の度合い」について比較・検討する。

I-2 「紙面記事荷重グラフ（News Weight Pattern Graph [NWP]）」

皇室に関する新聞記事がどの「高さ」から開始されているかは、皇室に対する「敬意」

をあらわす指標だと考えられる。本稿では、皇室に関する記事の開始段数の違いを視覚的に把握するため、「紙面記事荷重グラフ (News Weight Pattern Graph [NWP])」を作成して考察する。

次の図1.2は、皇室関連の出来事を報じる日本の (A) 朝日・(S) 産経・(M) 毎日・(Y) 読売の紙面である。記事の配置された場所を枠線によって示した。



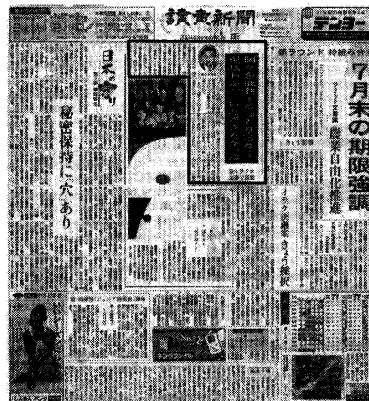
(A) 朝日



(S) 産経



(M) 毎日



(Y) 読売

図1.2 紙面における記事の割り付け

上図の新聞紙面において記事の配置されている場所を「紙面記事荷重グラフ (News Weight Pattern Graph)」(以後、NWPグラフとよぶ)に展開すると、次の図1.3のようになる。

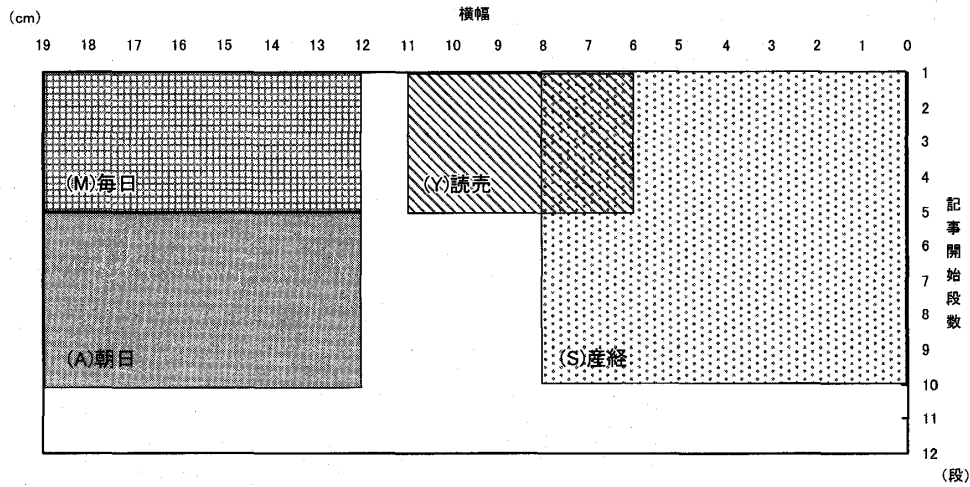


図1.3 紙面記事荷重 (NWP) グラフ

グラフの縦軸が記事の開始段数（1～11段）、横軸は紙面の幅（0～19cm）をあらわしており、各紙に対応した4つの長方形がグラフ上に示されている。各紙の記事をあらわす長方形は、以下の方法で描いた。まず、各記事の面積を求め、開始段と終了段を確定する。1段の高さを1.75cm（原寸3.5cmの1/2）とし、そこから「記事の面積（cm²）」÷「高さ（cm）」によって長方形の「横幅（cm）」を求めた³。記事の開始位置は紙面の右端を基準とした。

「NWPグラフ」には、紙面における「記事の大きさ」、「記事開始段数」、「記事終了段数」、そして、大まかな「記事の配置」が同時にあらわされており、また、各紙を模様別に表示することで、各新聞の皇室関連記事の大きさとその位置関係を比較することができる。

I-3 「皇室報道」における敬語

日本の新聞における皇室に関する用語（皇室用語）について、共同通信社の記者ハンドブックでは以下のように述べられている⁴。

一、皇室に対しては、原則として敬称、敬語を使う。敬称については皇室典範が天皇、皇后、太皇太后、皇太后には「陛下」、それ以外の皇族には「殿下」とすることを定めており、敬称、敬語の使用についての国民感情も共同通信の世論調査では「今のままでよい」が多数を占めている。

3 データはすべて (A) 朝日・(M) 毎日・(Y) 読売の縮刷版のサイズ（原板の1/2）に合わせた。

4 (Y) 読売の用字用語の手引き書には、「皇室用語集」が掲載されている（読売新聞社編、2005）。それに対して (A) 朝日と (M) 毎日の記者ハンドブックでは、「皇室用語」という項目はなかった（朝日新聞社用語幹事編、2005；毎日新聞社編、2005）。なお、(S) 産経は記者ハンドブックが出版されていない。

二、ただし、敬語が過剰にならないようにし、特に二重敬語を使わないよう注意する。敬語が多いと読みにくいので、できるだけ敬語を減らすよう工夫する。

〔例〕ご出席される→出席される、ご出席　ご一緒に乗車される→一緒に乗車される、一緒に乗られる

また文章の末尾が「された」「される」「…とお忙しい」などと敬語で受ける場合は、前段の敬語は原則として省略する。

〔例〕国体開会式ご出席のため〇〇県をご訪問中の天皇陛下は〇日、同県立美術館をご視察になり、A氏の作品をご覧になった→国体開会式出席のため〇〇県を訪問中の天皇陛下は〇日、同県立美術館を視察、A氏の作品を鑑賞された

動詞の敬語法は次の型がある。

①れる　られる

〔例〕書かれる　出席される　贈られる

②お〇〇になる

〔例〕お書きになる　お着きになる

③ご〇〇になる

〔例〕ご出席になる　ご覧になる

〔注〕②③の型はできるだけ使わない。

三、歴代の天皇、皇后、太皇太后、皇太后を贈り名で呼ぶ場合、法制上の身分をあらわすときなど現実の天皇を対象としない場合には「陛下」の敬称、敬語を付けなくてもよい。故人となった皇族や、法制上の身分をあらわすときなどの場合は「殿下」「さま」の敬称は付けない。

〔例〕昭和天皇、香淳皇后、貞明皇后、故秩父宮、天皇の地位

〔注〕「平成天皇」とはしない。

四、見出しなど簡潔を必要とする場合には「陛下」「殿下」「さま」の敬称や敬語を省略してよい。

〔例〕天皇のお言葉、皇太子ご旅行

五、皇室だけに使われる特別な敬語や用語は、やさしい言葉に言い換える。

〔例〕行幸啓、行幸→旅行、訪問　お召し列車→特別列車

六、皇室用語は、儀式のスケジュールなどは発表通りの文字を使う場合もあるが、一般記事では表外字を使わず、やさしい言葉に言い換える。儀式、固有名詞などで言い換え、書き換えの困難なものは読み方を示したり、意味を注記したりする。

〔例〕皇霊殿神殿に謁（えっ）するの儀〔公式日程など特別の場合〕
皇霊殿神殿に拝礼された〔記事の場合〕
皇室の最重要祭儀である大嘗祭（だいじょうさい）〔固有名詞の場合〕
七、「御」は常用漢字表で「ご」と読むが、固有名詞以外はなるべく「ご」と平仮名書きにする。

〔例〕ご結婚 ご夫妻 東宮御所 葉山御用邸
八、外国王室については、原則として敬語は使わない⁵。（共同通信社編、2005：585-586）

「皇室報道」における「敬語」の使い方に注目すると、上記の中では、次の4点が重要である。

- ①皇室に対しては、原則として敬称、敬語を使う。
- ②敬語が過剰にならないようにし、特に二重敬語を使わないよう注意する。敬語が多いと読みにくいので、できるだけ敬語を減らすよう工夫する。
- ③見出しなど簡潔を必要とする場合には「陛下」「殿下」「さま」の敬称や敬語を省略してよい。
- ④皇室だけに使われる特別の敬語や用語は、やさしい言葉に言い換える。

新聞では「皇室」に関する報道をする場合、原則として「敬称」や「敬語」を使うが、同時にそれをできるだけ省略もしくは減らすようにしており、その程度によっては「皇室」に対する「敬意」は抑えられることになる⁶。

本稿では、皇室に対する敬語の中でも、特に見出しにおける「ご」という敬語表現（以下、「ご」表現とよぶ）に注目し、その頻度と文字面積を計測・比較することから、各紙の皇室に対する「敬意の度合い」を分析する。

Ⅱ 皇太子さまの「人格否定」発言をめぐる4大新聞の荷重報道の分析

2004年5月10日、皇太子さまの欧州（デンマーク、ポルトガル、スペイン）訪問前に東宮御所において記者会見が開かれ、その時の皇太子さまのご発言が注目を浴びた⁷。

5 タイでは、外国の王室に関する報道であっても、「王室用語」や「記事の高さ」をはじめ、同じ王室として同程度の敬意をもって報道される。

6 タイの王室報道における「王室用語」は、日本の皇室報道のようにやさしい言葉に言い換えられることなく、「王室専用の言葉」としてそのまま用いられる。

7 発言内容の全文については、巻末の資料2を参照。

皇太子さまは、「殿下お一方でご訪問されることに至った経緯、結果についての殿下、妃殿下のお気持ちをお聞かせください」という記者団からの質問に対して、「私も雅子も是非二人で各国を訪問できればと考えておりましたけれども、雅子の健康の回復が十分ではなく、お医者様とも相談して、私が単独で行くこととなりました」と述べられた上で、「雅子には、外交官としての仕事を断念して皇室に入り、国際親善を皇族として、大変な、重要な役目と思いつつも、外国訪問をなかなか許されなかったことに大変苦悩しておりました」、「雅子にはこの10年、自分を一生懸命、皇室の環境に適應させようと思いつつ努力してきましたが、私が見るところ、そのことで疲れ切ってしまうように見えます」などとお答えになった。さらに、「それまでの雅子のキャリアや、そのことに基づいた雅子の人格を否定するような動きがあったことも事実です」と発言された。

この記者会見での皇太子さまのご発言が波紋をよび、この発言を受けて宮内庁は急遽記者会見を開き、今回の出来事をメディアを通じて国民に説明した。

また、皇太子さまが欧州訪問から帰国された2004年6月8日、宮内庁は皇太子さまがご自身の「人格否定」発言についての真意を示す説明文書を公表した。

本章では、4大新聞（(A)朝日・(S)産経・(M)毎日・(Y)読売）の皇室報道において見出されるさまざまな荷重要素に注目し、それらを量的に把握することによって、各新聞社の皇室に対する「敬意の度合い」を比較・分析する。

対象と方法

対象として、皇太子さまの「人格否定」発言を報道する新聞記事を取り上げる。対象期間は2004年5月11日朝刊から6月26日の夕刊までであり、(A)朝日・(S)産経・(M)毎日・(Y)読売新聞において報道された「人格否定」発言に関するすべての記事を収集し、分析した。

分析方法は、まず、記事の面積を計測し、各紙の報道を量的に把握する。計測されたデータより時系列の「荷重グラフ」を作成し、対象期間中の各紙が「人格否定」発言をどのように重みづけて報道していたかについて、視覚的に把握する。

次に、対象期間中における各紙の見出しの敬語表現について検討する。見出しにおける敬語は、記者ハンドブックによると「見出しなど簡潔を必要とする場合は敬称・敬語は省略してよい」とされている（共同通信社編、2005）。見出しは文字数が限られており、「れる」や「られる」といった助動詞は省略されることが多く、その中で特に新聞社が皇室に対する「敬意」をあらわすためには、見出しに「お」や「ご」といった敬意をあらわす言

葉を用いることになる。このことから、見出しにおける「ご」という文字の頻度と面積を分析することで、各紙の「敬意の度合い」が比較できると考えられる。

最後に、「人格否定」発言を報じる記事の「開始段数」に注目し、各紙のそれぞれの記事がどの段から開始されているかについて「紙面記事荷重グラフ (News Weight Pattern Graph [NWP])」および「記事開始段荷重グラフ (Start-line Reverence Weights [SRW])」を用いて考察する。

以下の表2.1は、各紙の記事面積と見出しにあらわれた「ご」のデータ一覧である。

表2.1 各紙別記事面積・「ご」データ一覧

日付	(A) 朝日			(S) 産経			(M) 毎日			(Y) 読売		
	総面積 (cm ²)	「ご」頻度 (回)	「ご」面積 (cm ²)	総面積 (cm ²)	「ご」頻度 (回)	「ご」面積 (cm ²)	総面積 (cm ²)	「ご」頻度 (回)	「ご」面積 (cm ²)	総面積 (cm ²)	「ご」頻度 (回)	「ご」面積 (cm ²)
5.11	241.44	0	0.00	339.90	2	2.18	306.80	0	0.00	236.06	0	0.00
12	36.30	0	0.00	92.16	1	0.30	36.04	0	0.00	81.40	0	0.00
13	103.95	0	0.00	328.80	5	2.71	459.04	0	0.00	239.20	1	0.64
14	148.50	0	0.00	121.80	2	2.07	66.00	0	0.00	127.60	0	0.00
15	41.25	0	0.00	81.00	0	0.00	155.76	0	0.00	550.26	1	0.16
16	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00
17	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00
18	168.00	0	0.00	95.69	1	0.20	188.84	0	0.00	63.64	1	0.16
19	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00
20	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00
21	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00
22	0.00	0	0.00	182.35	1	0.30	37.40	0	0.00	0.00	0	0.00
23	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00
24	106.00	0	0.00	73.98	1	0.30	55.70	0	0.00	73.44	0	0.00
25	107.84	0	0.00	112.34	0	0.00	446.48	1	0.96	28.70	0	0.00
26	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00
27	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00
28	76.23	1	0.16	73.14	1	0.16	63.92	0	0.00	92.50	0	0.00
29	78.21	0	0.00	25.88	1	0.09	25.84	0	0.00	37.00	0	0.00
30	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00
31	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00
6.5	72.93	0	0.00	78.28	1	0.42	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00
6	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00
7	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00
8	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00
9	897.76	0	0.00	959.57	3	0.27	589.28	0	0.00	965.36	1	0.16
10	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	42.16	0	0.00	0.00	0	0.00
11	51.48	0	0.00	0.00	0	0.00	141.44	1	0.16	0.00	0	0.00
12	74.80	1	0.48	62.56	0	0.00	37.40	1	0.16	99.68	0	0.00
13	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00
14	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00
15	106.92	0	0.00	0.00	0	0.00	69.36	0	0.00	86.40	1	0.16
16	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00
17	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00

18	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00
19	30.36	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	41.44	0	0.00
20	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00
21	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00
22	54.00	0	0.00	0.00	0	0.00	92.16	1	0.48	0.00	0	0.00
23	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00
24	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00
25	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	84.32	0	0.00	0.00	0	0.00
26	39.96	0	0.00	59.23	0	0.00	22.14	0	0.00	41.44	0	0.00
計	2435.93	2	0.64	2686.68	19	9.00	2920.08	4	1.76	2764.12	5	1.28

II-1 報道量の全体的比較

対象期間中における各紙の「総面積」は、以下のものである（表2.2）。

表2.2 「人格否定」発言関連記事の総面積

	総面積 (cm ²)
(A) 朝日	2435.93
(S) 産経	2686.68
(M) 毎日	2920.08
(Y) 読売	2764.12

4紙の中では、(M) 毎日が2920.08cm²と記事の面積をもっとも大きく用いて、皇太子さまの「人格否定」発言について報道していた。それに続く(Y) 読売は2764.12cm²、(S) 産経は2686.68cm²であり、4位は(A) 朝日の2435.93cm²だった。

「ご」の出現回数と面積

次の図2.1は期間中の各紙の見出しにあらわれた「ご」という文字の出現頻度とその文字面積を合計し、ひとつのグラフにまとめたものである。

「ご」の出現回数は、各紙が見出しで何回「ご」という敬語表現を用いて「人格否定」発言について報道したかをあらわしている。また、見出しにおける文字の大きさは、会話における「声」の大きさに対応すると考えられる（木村・板村・池信 2004）。各紙が見出しで「ご」という文字をどれほど大きく用いていたかを比較することからも、各紙の「敬意度」の違いが明らかになると考えられる⁸。

8 対象期間中には「お」を用いた敬語表現がなかったため、今回は「ご」に限定して分析を行った。

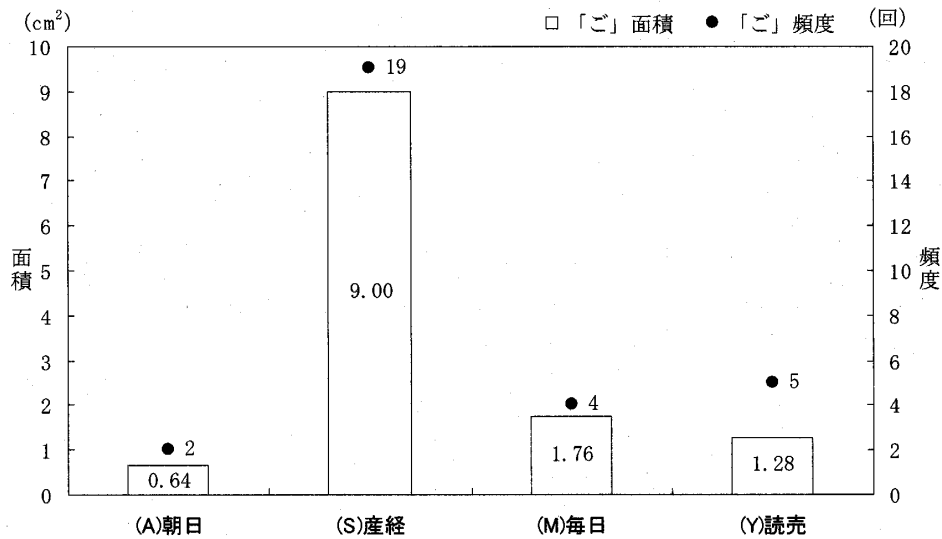


図2.1 「ご」の頻度と面積の合成グラフ

考察

図より明らかなように、(S)産経の「ご」の頻度(●)と文字面積(□)の値が突出している。(S)産経は期間中、見出しに19回の「ご」を用い、またその文字面積も大きかった(9.00cm²)。(M)毎日と(Y)読売における「ご」の使用頻度と文字面積はほぼ同じである((M)毎日4回、1.76cm²; (Y)読売5回、1.28cm²)。

4紙の中で「ご」を用いた敬語表現の使用頻度が低く、その「声」も小さかったのは、(A)朝日である(2回、0.64cm²)。

Ⅱ-2 「時系列荷重グラフ」による分析

日ごとに得られた「記事面積」のデータを時系列にプロットングすることで、「時系列荷重グラフ(Diachronic graphs of Semio-Weights)」を作成する。新聞紙面に見出される「荷重量」を計測し、得られた値を時系列に表示し、同時に複数の新聞紙を色分けで区別して同一平面上に示すことで、「荷重量の通時的変化を示すグラフ」が作成される。

「時系列荷重グラフ」は、それぞれの日付に注目することで、その時々各紙の荷重量の「通時的」な変化・増減を「視覚的に」比較することができる。

① 「人格否定」発言関連記事の面積の推移(図2.2)

図2.2は、「人格否定」発言に関する4大新聞の記事の大きさを測定し、時間軸に沿って配列したものである。縦軸は「人格否定」発言関連の記事面積をあらわし、横軸は時間

(2004.5.11-6.26)を示している。また、グラフ内には、対象期間中に起こった主な出来事を記入した。

② 見出しにおける「ご」の出現頻度の推移（図2.3）

各紙の見出しにおいて、敬意を示す「ご」という文字の出現頻度とその面積を計測し、得られたデータより時系列の「荷重グラフ」を作成する。図2.3は、対象期間中の記事の見出しにあらわれた「ご」を用いた敬語表現（「ご」表現とよぶ）をカウントし、その日ごとの頻度を時系列軸上にプロットしたものである。縦軸は「ご」を使った回数、横軸は日付を示す。

このグラフから、各紙は見出しにおいてどれほど「ご」表現を用いて皇室に対する敬意をあらわしたかを考察する。

③ 見出しにおける「ご」面積の推移（図2.4）

図2.4のグラフは、期間中の見出しにおける「ご」という文字の大きさを計測し、得られた値から作成した「時系列荷重グラフ」である。図では「ご」の面積をその日ごとに合計し、グラフ化した。

このグラフからは、各紙の「ご」という「声」の大きさの変化が比較できる。

なお、①～③の各グラフでは、それぞれの新聞社を色別に表示している（(A) 朝日=赤、(S) 産経=橙、(M) 毎日=青、(Y) 読売=緑）。

考察

① 「人格否定」発言記事の面積の推移（図2.2）

①-1 報道量のピーク

図2.2のグラフから、3つの報道量のピーク（5月11日、5月13日、6月9日）を読み取ることができる。棒グラフの突出は報道量が集中していることをあらわしており、各新聞社が「人格否定」発言に関する記事をその日に多く取り上げたことを示している。

各紙の報道が集中した日とそれぞれの出来事は、以下のようである。

1) 5月11日：皇太子さまの「人格否定」発言

5月10日、欧州訪問前の記者会見において皇太子さまは、雅子さまに対する人格否定の動きがあった、と発言された。このことを受け、新聞各社は翌日の11日にこの出来事を取

り上げた。

2) 5月13日：林田英樹東宮大夫の記者会見

5月12日、宮内庁の林田英樹東宮大夫が皇太子さまの「人格否定」発言について、急遽記者会見を開いた。その会見の内容が翌13日の各紙に掲載され、各紙ともに報道量が増加している。

3) 6月9日：皇太子さまの説明文書公表

6月9日は対象期間中、各紙の報道量をもっとも多い。9日の各紙は、皇太子さまが先月の雅子さまに関する「人格否定」発言についての説明文書を公表されたことを受けて、「人格否定」発言に関するそれぞれの意見を報道した。

①-2 (M) 毎日の報道量の突出

5月13日と25日、6月10、11、22、25日の各日における報道量に注目すると、いずれも(M) 毎日をあらわす青色の棒グラフの突出が目立っている。期間全体を通して「人格否定」発言に対する関心が高かった新聞社は、(M) 毎日だったといえる。

①-3 報道量の減少

6月9日を境にして各紙の報道量の減少がみられる。特に、(S) 産経はその傾向が顕著で、13日から25日までの報道量がゼロであり、報道がまったくなかったことをあらわしている。

「人格否定」発言関連記事の面積荷重グラフからは、以上のことを読みとることができた。

② 見出しにおける「ご」の出現頻度の推移 (図2.3)

(A) 朝日は期間中を通じて、見出しに「ご」を2回しか使っていなかった。5月と6月に1回ずつである。

(S) 産経はもっとも多く「ご」を用いており、合計で19回だった。5月13日の報道ではあわせて5回の「ご」を使っていた。これは、全期間中・全紙中最多である。

(M) 毎日は前半の5月13日に1回、後半の6月には3回の「ご」表現を使っており、後半に集中して用いていた。

(Y) 読売は前半に3回、後半に2回の「ご」を見出しに使用した。

日本の4大新聞における皇室報道の比較研究 (木村・ハンナロン・板村)

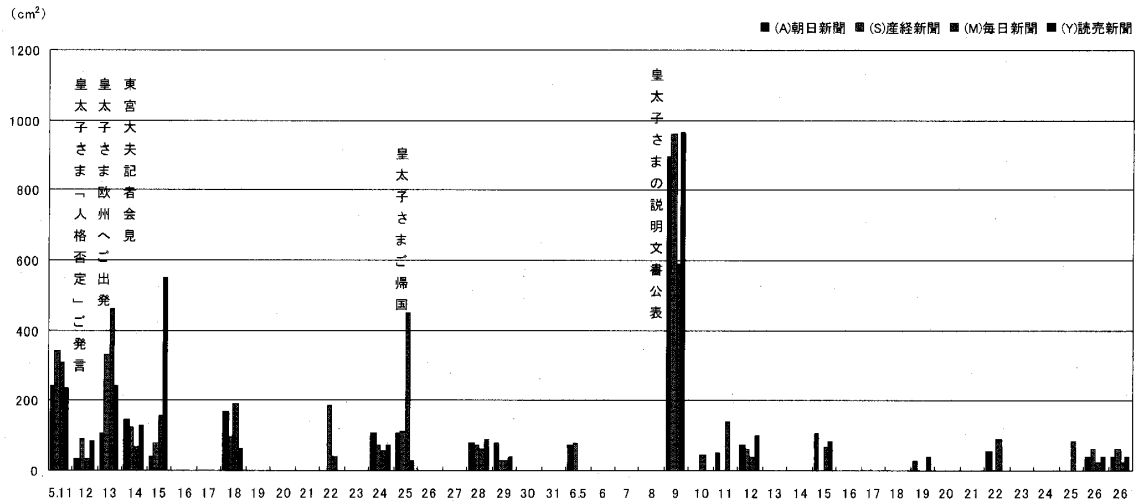


図2.2 「人格否定」発言関連記事の面積の推移

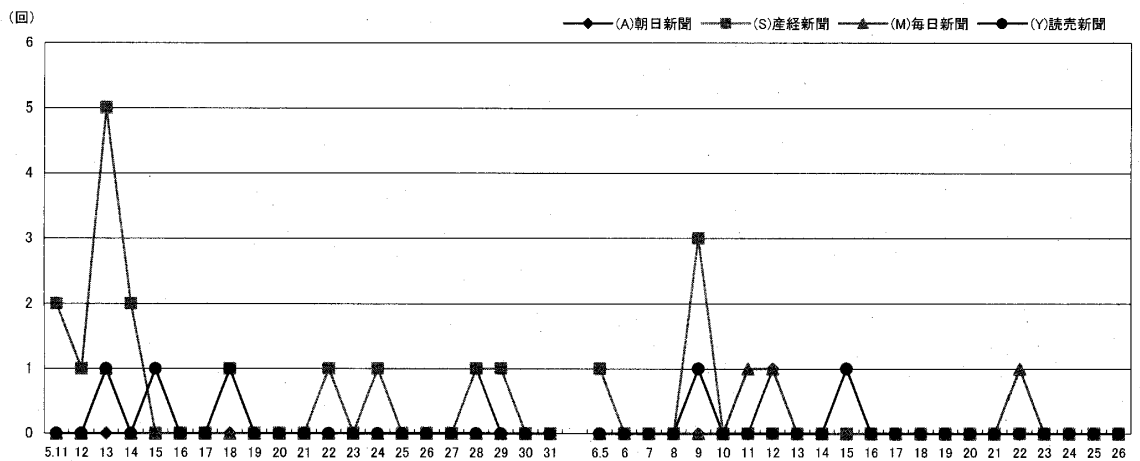


図2.3 「ご」表現頻度の推移

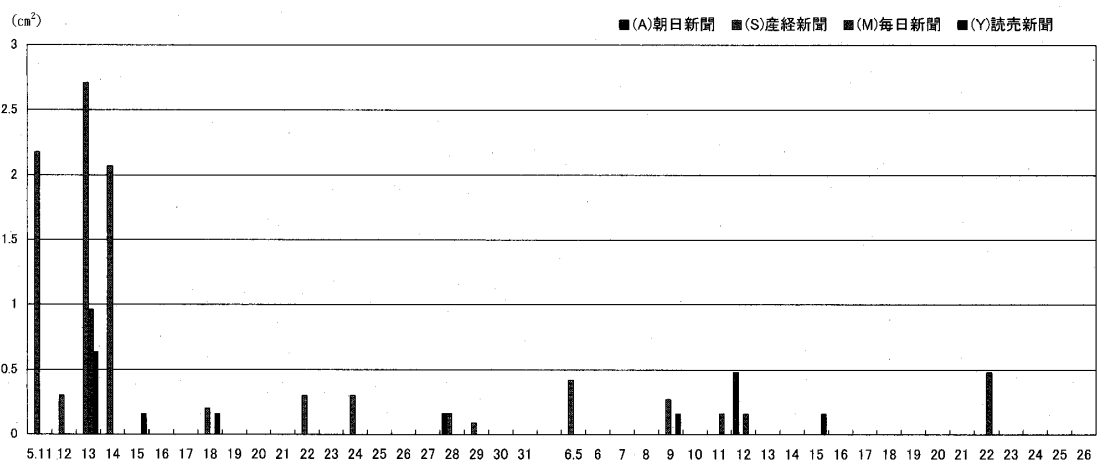


図2.4 「ご」面積の推移

③ 見出しにおける「ご」面積の推移（図2.4）

(S) 産経の「大声」

図2.4に示されているように、(S) 産経は5月11日～14日までの間、見出しに大きな「ご」を多く使って皇太子さまの「人格否定」発言について報道した。(S) 産経は全期間を通して見ても、他の新聞社よりも「ご」の「声」が小さい日はなかった。

(A) 朝日の「ささやき声」

(A) 朝日は「ご」を使用した回数が2回と、もっとも少ない新聞社だった。5月28日は(S) 産経と同じ大きさの「ご」を用いており、6月12日には(M) 毎日の「ご」よりも大きかった。

(M) 毎日の「後の声」

(M) 毎日は期間中4回の「ご」を見出しに用いている。(M) 毎日の最初の「ご」表現は、5月13日である。その後は沈黙し、それから約1か月後の6月11日と12日に連続して「ご」を用いた。6月22日は(M) 毎日の最後の「声」であり、期間中もっとも大きい「ご」だった(0.48cm²)。

(Y) 読売の「同じ声」

(Y) 読売は期間を通して、5回の「ご」を見出しに用いた。そのうち4回はまったく同じ大きさ(0.16cm²)で「ご」という敬語表現を使っていた(5月15日・18日、6月9日・15日)。

II-3 各紙の特徴

次に示す図2.5は、各紙が見出しに「ご」を使用した回数とその「声」の大きさを同時にあらわした時系列の「荷重グラフ」である。

このグラフから、対象期間中における各紙の「敬意度」の特徴を分析する。

考察

(A) 朝日

期間中、(A) 朝日は合計2回しか「ご」表現を用いていない⁹。前半と後半に1回ずつ

9 (A)朝日の2回の「ご」表現は、いずれも《ご夫妻》という言葉だった。

であり、4紙の中でもっとも「ご」という敬語表現を使用していなかったといえる。

(A) 朝日が用いた「ご」表現の中でもっとも大きな「声」は、6月12日の0.48cm²である。後半1回の「ご」は、0.16cm²であった。

見出しの「ご」という敬意をあらわすワードを比較する限りにおいて、(A) 朝日はもっとも皇室に対する「敬意の度合い」が低かった新聞社だと考えられる。

(S) 産経

グラフから明らかなように、(S) 産経は対象期間中ほぼ全般にわたって「ご」表現を用いていた。(S) 産経は期間中、19回の「ご」を見出しに使っている。これは、全紙中最多の頻度である。19回の「ご」のうち15回が前半の5月に使われており、特に13日に集中していた。後半部分の6月には4回の「ご」が見出しに用いられている。

また、(S) 産経は「ご」の頻度とともに、その文字面積も大きく、大きな「声」で「ご」という敬語表現を用いていた。(S) 産経の最大の大きさの「ご」は5月13日の2.71cm²、最小は5月29日の0.09cm²であった。

以上のことから、(S) 産経は見出しにおいて「ご」という敬語をあらわすワードを多用しており、皇室に対する「敬意の度合い」がもっとも高かったといえるだろう。

(M) 毎日

(M) 毎日は期間中4回の「ご」表現を見出しに使っていた。前半の5月に1回、後半の6月に3回と、後半に集中していた。5月13日の(M) 毎日における「ご」は頻度は1回のみであるが、その文字面積は0.96cm²である。これは(M) 毎日の中でもっとも大きな「ご」である。

6月以降の後半部分において(M) 毎日は、6月11日と12日に2日連続で0.16cm²の「ご」を用いている¹⁰。また、22日に1回で0.48cm²の大きさの「ご」を用いている。

(M) 毎日は、他紙の報道があつて後、数日してから「声」を出す傾向が読み取れる。

(Y) 読売

(Y) 読売は合計で5回の「ご」表現を使っていた(前半の5月が3回、後半の6月は2回)。

10 (M) 毎日の「ご」表現は、《ご意向》が1回、後の3回はいずれも《ご夫妻》であった。

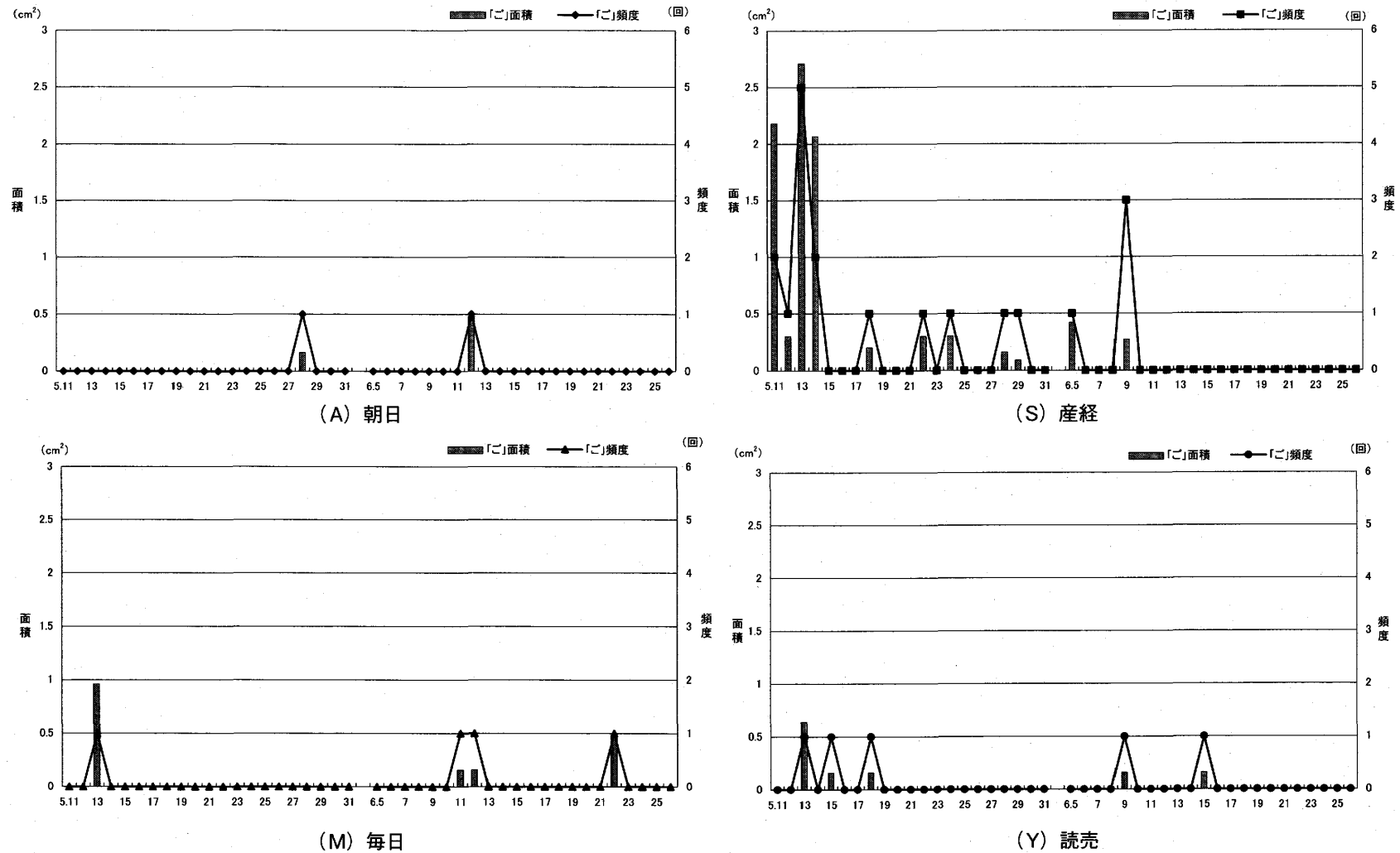


図2.5 各紙別「こ」頻度・面積荷重の合成グラフ

(Y) 読売は5月13日の「ご」が一番大きかった(0.64cm²)。その後の4回は棒グラフの高さがすべて同じであり、0.16cm²だった。

(Y) 読売は、全体を通して「ご」表現を用いていたといえる。

「ご」表現の頻度と大きさのグラフからは、以上のことを読み取ることができた¹¹。

II-4 「人格否定」発言報道の比較

本章では、分析の対象期間を3つに区分けし、そのうちポイントとなる日をいくつか取り上げて、皇太子さまの「人格否定」発言に関する①見出しの比較と②「NWPグラフ」による分析から、各紙の報道の特徴を把握する。

期間中の主な出来事は、以下の通りである(表2.3)。

表2.3 期間中の主な出来事

人格否定発言をめぐる報道 (2004.5.11~23)	5月10日	皇太子さまが、欧州訪問前の記者会見で「雅子のキャリアや人格を否定するような動きがあった」と発言される
	5月12日	皇太子さまが欧州へ出発される
	5月13日	皇太子さまのご発言を受け、東宮大夫が急遽記者会見を開く
皇太子さまご帰国後の報道 (2004.5.24~6.8)	5月24日	皇太子さまが欧州から帰国される
	6月8日	皇太子さまが発言内容に関する説明文書を公表される
皇太子さまの「説明文書」公表後の報道 (2004.6.9~26)	6月12日	宮内庁が皇太子ご夫妻に外部からの相談役を検討
	6月26日	宮内庁が雅子さまに対する取材の自粛を要請する

11 以上に示した各紙の報道の傾向((A)朝日の「低頻度と小声」、(S)産経の「先行と大声」、(M)毎日の「後追い」、(Y)読売の「大声と継続」など)は、北朝鮮による日本人拉致の分析(木村・板村・池信 2004、2005)においても見出されている。

II-4-1 「人格否定」発言をめぐる報道（2004年5月11日～23日）

《5月11日》

① 見出しの比較

表2.4 各紙見出し一覧（2004.5.11）

(A) 朝日		(S) 産経	
頁	見出し	頁	見出し
34	「皇室適応の努力で疲れ切る」 「人格否定するような動きも」 雅子さま巡り皇太子さま語る	28	雅子さまのご苦悩率直に 皇太子さま、異例の強い表現で 欧州ご訪問控え会見 ご夫妻にかかる期待のはざまに 皇太子さま会見要旨
e-14	皇太子さま発言背景官房長官 「承知せぬ」		
(M) 毎日		(Y) 読売	
頁	見出し	頁	見出し
28	皇太子さま訪欧前会見 雅子さまへ気遣い 「人格否定する動き」に悩み 10年間の努力で「疲れきり」 公務復帰は「しばらく時間」 会見要旨	34	「単独訪欧、後ろ髪引かれる思い」 「雅子は疲れ切っているようです」 皇太子さま会見 複雑な心情吐露

(A) 朝日は、会見における皇太子さまのお言葉をそのまま引用し、《「皇室適応の努力で疲れる」》《「人格否定するような動きも」》という見出しを用いていた。他紙が皇太子さまの欧州のご訪問について触れている中、(A) 朝日は、雅子さまのを中心とする報道だった。また、(A) 朝日は、夕刊にも皇太子さまのご発言に関する記事を掲載していた。

(S) 産経は、他の新聞社の報道とは対照的に、見出しにカギ括弧（「」）を使わず、地の文で《ご苦悩》《ご訪問》《ご夫妻》などのように、「ご」という敬語の表現を多用していた。

(M) 毎日の見出しの中でもっとも大きいものは、《雅子さまへ気遣い》だった。また、皇太子さまの発言内容を、いくつかのカギ括弧に分けて引用して見出しにした。

(Y) 読売も、(A) 朝日と同様、皇太子さまの言葉をカギ括弧で引用し、見出しにしていた。

② NWP グラフによる比較

この日の各紙の「人格否定」発言に関する記事の面積と「高さ」（記事の開始段数と終了段数）をNWPグラフに展開すると、以下の図2.6のようになる。

表2.5 記事開始・終了段数と面積の一覧

(A) 朝日				(S) 産経				(M) 毎日				(Y) 読売			
頁	総面積 (cm ²)	開始段数 (段)	終了段数 (段)	頁	総面積 (cm ²)	開始段数 (段)	終了段数 (段)	頁	総面積 (cm ²)	開始段数 (段)	終了段数 (段)	頁	総面積 (cm ²)	開始段数 (段)	終了段数 (段)
34	208.46	3	9	28	339.90	1	9	28	306.80	1	8	34	236.06	1	6
e-14	32.98	4	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

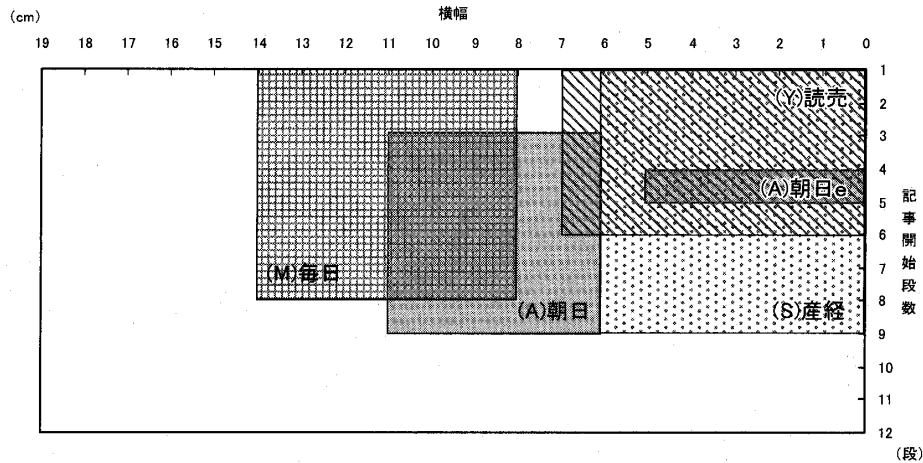


図2.6 NWP グラフ (2004.5.11)

(A) 朝日は朝・夕刊とも記事があったため、(A) 朝日をあらわす長方形を2か所に表示した。夕刊は (A) 朝日 e とする。

(S) 産経・(Y) 読売・(M) 毎日の記事が1段目から始まっているのに対し、(A) 朝日の朝刊が3段目、夕刊は4段目から始まっていた。記事の「高さ」から皇室に対する「敬意の度合い」を比較すると、他の3紙に比べて (A) 朝日の「敬意」は低かったといえる。

また、記事の大きさは、(S) 産経 > (M) 毎日 > (A) 朝日 > (Y) 読売 の順であり、(S) 産経がもっとも大きな面積を割いて皇太子さまの「人格否定」発言について報道していたといえる。

〈5月12日〉

① 見出しの比較

表2.6 各紙見出し一覧 (2004.5.12)

(A) 朝日		(S) 産経		(M) 毎日		(Y) 読売	
頁	見出し	頁	見出し	頁	見出し	頁	見出し
e-14	皇太さまは欧州へ出発	e-12	皇太子さま欧州へご出発	e-8	皇太子さま、欧州へ出発	e-14	皇太子さま欧州へ出発

この日、各紙はいずれも夕刊で皇太子さまが欧州へ出発されたことについて報じた。

各紙の見出しを比較してみると、(A) 朝日・(M) 毎日・(Y) 読売は《皇太子さま (は) 欧州へ出発》と、ほぼ同じような見出しだった。それに対し、(S) 産経だけは《出発》ではなく《ご出発》というワードを使い、敬意を高めていた。

② NWPグラフによる比較

表2.7 記事開始・終了段数と面積の一覧

(A) 朝日				(S) 産経				(M) 毎日				(Y) 読売			
頁	総面積 (cm ²)	開始段数 (段)	終了段数 (段)	頁	総面積 (cm ²)	開始段数 (段)	終了段数 (段)	頁	総面積 (cm ²)	開始段数 (段)	終了段数 (段)	頁	総面積 (cm ²)	開始段数 (段)	終了段数 (段)
e-14	36.30	8	9	e-12	92.16	4	8	e-8	36.04	6	8	e-14	81.40	5	7

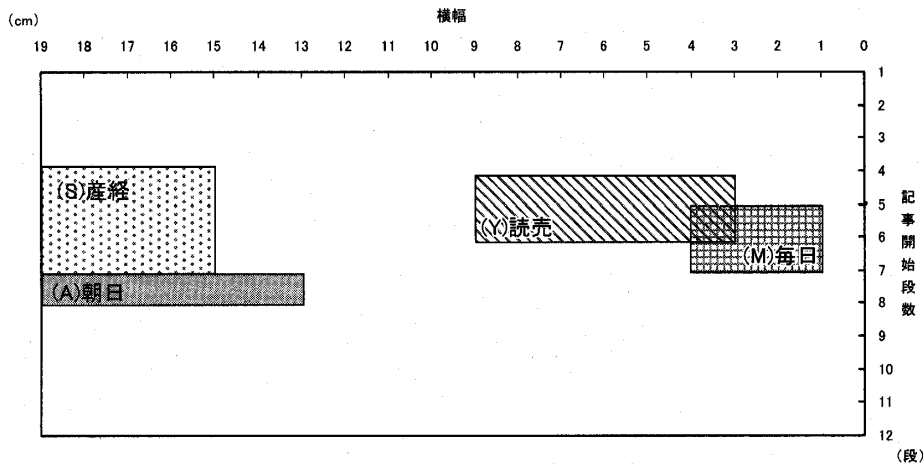


図2.7 NWPグラフ (2004.5.12)

(S) 産経が4段目、(Y) 読売が5段目、(M) 毎日が6段目、(A) 朝日が7段目の高さから記事を開始しており、ほとんど同じ高さであった。各紙の開始段数の高さで「ご」という見出しの使い方をあわせて考えると、4紙の中では、(S) 産経がもっとも皇室に対する敬意の度合いが強かったといえるだろう。

〈5月13日〉

① 見出しの比較

表2.8 各紙見出し一覧 (2004.5.13)

(A) 朝日		(S) 産経	
頁	見出し	頁	見出し
38	皇太子さま発言 東宮大夫が会見 「しっかり受け止める」	3	皇太子さまご発言 東宮大夫急遽会見 ご心痛重く受け止める 雅子さまに 一番いいことを 両陛下とご相談し たい 過去の皇太子ご夫妻の海外訪問 雅子さま、ご静養中
(M) 毎日		(Y) 読売	
頁	見出し	頁	見出し
25	皇太子さま”率直発言”に波紋 矢面の宮内庁「重く受け止め」 ・戸惑い ・抗議も 《雅子さまの様子についての皇太子 さまの会見要旨》 直前まで「同行のご意向」	34	皇太子さま発言 「大変なご心痛、重く受け止め」 東宮大夫 「対応、努力したい」 意思疎通の努力事務方に不足 解説

13日の各紙は、林田英樹東宮大夫の記者会見の内容を報道した。東宮大夫は皇太子さまのご発言を受けて「大変なご心痛があったのだと重く受け止め、できる限りの対応をしていきたい」と述べた。

見出しを比較すると、(A) 朝日・(M) 毎日・(Y) 読売はカギ括弧を使って、林田東宮大夫の言葉を引用した。(S) 産経と (M) 毎日は、皇太子さまの外国訪問について詳しく説明する記事を載せており、(M) 毎日はさらに、イギリスの新聞が日本の皇室について報道していたことを取り上げ、他国が皇室に対して関心を寄せていることを伝えた。

(Y) 読売は東宮大夫の会見の記事の後、雅子さまの体調不良に影響をおよぼす要因について分析した記事を載せている。

見出しの「ご」表現に注目してみると、(S) 産経が5回、(M) 毎日と (Y) 読売はそれぞれ1回の「ご」を使っていたが、(A) 朝日は一度も使っていなかった。

② NWPグラフによる比較

表2.9 記事開始・終了段数と面積の一覧

(A) 朝日				(S) 産経				(M) 毎日				(Y) 読売			
頁	総面積 (cm ²)	開始段数 (段)	終了段数 (段)	頁	総面積 (cm ²)	開始段数 (段)	終了段数 (段)	頁	総面積 (cm ²)	開始段数 (段)	終了段数 (段)	頁	総面積 (cm ²)	開始段数 (段)	終了段数 (段)
38	103.95	5	9	3	328.80	1	8	25	459.04	1	6	38	239.20	1	7

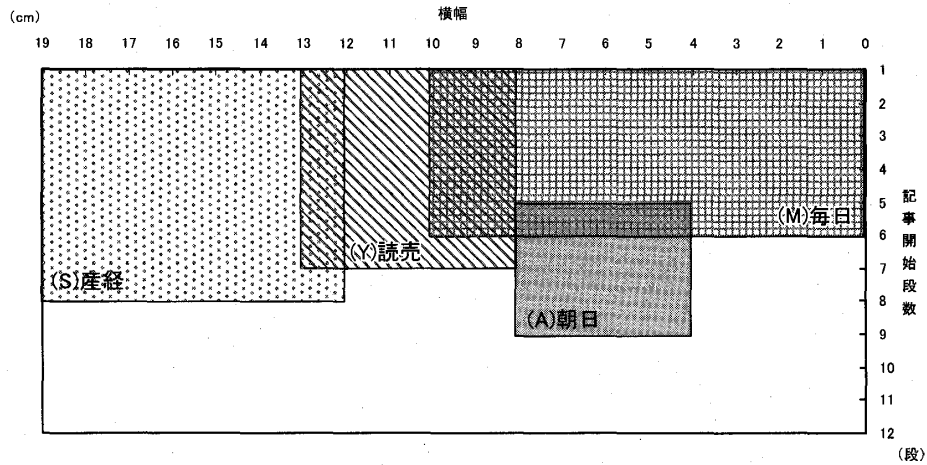


図2.8 NWPグラフ (2004.5.13)

図から明らかなように、(A) 朝日以外の3紙は、1段目から記事を掲載していた。

記事の大きさは、(M) 毎日 > (S) 産経 > (Y) 読売 > (A) 朝日 の順である。「ご」表現と「高さ」、そして「面積の大きさ」から考えると、(A) 朝日は皇室に対する「敬意の度合い」がもっとも低かったといえる。

II-4-2 皇太子さまご帰国 (2004年5月24日～6月8日)

《5月24日》

各紙は夕刊で皇太子さまの欧州訪問から帰国されたことと、皇太子さまのご訪問の感想を報道した。さらに宮内庁長官ができるだけ早く皇太子さまと面会し、「人格否定」発言の真意を聞きたいと考えていることを伝えた。この日の (A) 朝日は、皇太子さまの写真に掲載している。

① 見出しの比較

表2.10 各紙見出し一覧（2004.5.24）

(A) 朝日		(S) 産経		(M) 毎日		(Y) 読売	
頁	見出し	頁	見出し	頁	見出し	頁	見出し
e-14	「励ましの言葉、各国で頂いた」皇太子さま、欧州から帰国	e-12	皇太子さまご帰国	e-8	「いつの日か二人で訪欧できれば幸い」皇太子さま帰国	e-18	皇太子さま帰国 雅子さま同行できず「残念」

各紙の見出しを比較してみると、(A) 朝日・(M) 毎日・(Y) 読売は皇太子さまのご帰国と、皇太子さまの感想文書の中から雅子さまが同行できなかったこと、そしてそれに対する皇太子さまのお気持ちに関するトピックを見出しにしていた。それに対して (S) 産経は、皇太子さまが帰国されたことだけを見出しで触れていた。

見出しにおける「ご」という敬語表現に注目すると、(S) 産経のみが《ご帰国》というワードを見出しに用いていた。

② NWPグラフによる比較

表2.11 記事開始・終了段数と面積の一覧

(A) 朝日				(S) 産経				(M) 毎日				(Y) 読売			
頁	総面積 (cm ²)	開始段数 (段)	終了段数 (段)	頁	総面積 (cm ²)	開始段数 (段)	終了段数 (段)	頁	総面積 (cm ²)	開始段数 (段)	終了段数 (段)	頁	総面積 (cm ²)	開始段数 (段)	終了段数 (段)
e-18	106.00	5	8	e-12	73.98	1	5	e-8	55.70	7	8	e-18	75.60	5	7

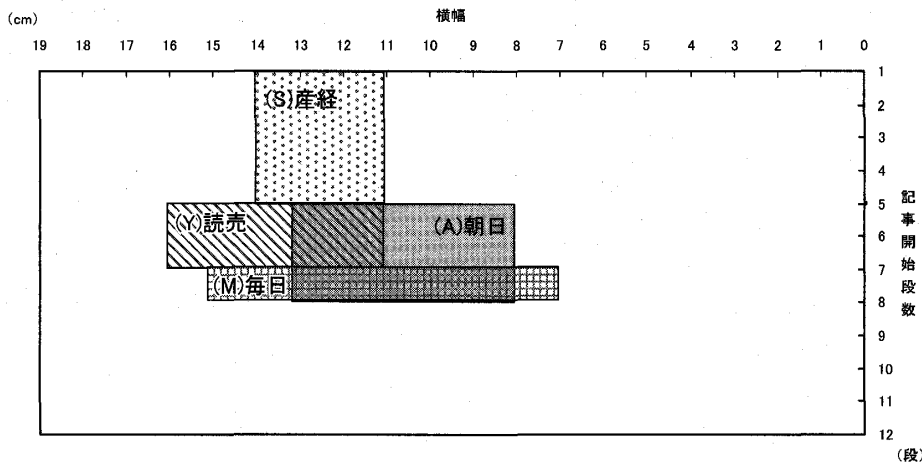


図2.9 NWPグラフ（2004.5.24）

図2.9のNWPグラフからは、1段目から記事を書いていた新聞社は (S) 産経だけだったことが読み取れる。

(A) 朝日と (Y) 読売はどちらも同じ5段目から記事を開始していた。開始段がもっとも低かったのは、7段目からスタートしていた (M) 毎日だった。

記事の大きさは、(A) 朝日 > (Y) 読売 > (S) 産経 > (M) 毎日 の順であり、(S) 産経は1段目から記事を開始したものの、面積は3番目だったことが分かる。

II-4-3 皇太子さまの「説明文書」公表 (2004年6月9日～26日)

〈6月9日〉

① 見出しの比較

表2.12 各紙見出し一覧 (2004.6.9-1面)

(A) 朝日		(S) 産経	
頁	見出し	頁	見出し
1	雅子さま巡る発言 個々動き批判するつもりない 活動、環境づくりが一番大切 皇太子さま説明文書	1	皇太子さま真意説明の文書公表 雅子さまの経歴生かす活動願う 「個々を批判するつもりない」 皇太子さまの文書全文
	文書全文		雅子さまのご体調を巡る5月10日の 皇太子さまのご発言要旨
(M) 毎日		(Y) 読売	
頁	見出し	頁	見出し
1	個々の批判するつもりない 雅子さま経歴生かし活動を 「人格否定」発言 皇太子さまが文書	1	個々を批判するつもりはなく 現状わかっていた良かった 皇太子さま文書で真意

各紙とも1面で、皇太子さまが「人格否定」発言の真意を説明された文書を宮内庁が公表したことを報道した。

また、この日は各紙とも1面以外でも報道した。見出しは以下の通りである。

表2.13 各紙見出し一覧 (2004.6.9-1面以外)

(A) 朝日		(S) 産経	
頁	見出し	頁	見出し
14	皇太子さま文書 真意、具体的に触れず 長官 「心配かけおわび」 日常の中、心の傷を示唆 皇太子さま異例の発言の経緯	3	皇太子さま真意説明の文書公表 雅子さま支える体制づくり急務 同世代の側近が必要 皇太子さまのご発言問題の経緯
	皇室での自己実現困難 精神科医の香山リカさんの話 本来の勤め話し合いを		殿下は宮内庁とよく話し合いたい と/事務方の責任者としておわびし たい
			湯浅宮内庁長官一問一答

八木秀次・高崎経済大助教授			
(M) 毎日		(Y) 読売	
頁	見出し	頁	見出し
14	宮内庁に再び波紋 皇太子さま再説明 「文書以上のことは・・・」 苦渋の長官、口重く 復帰めど立たず	39	皇太子さま 文書で心境 そっとお二人見守って 雅子さまご回復へ ゆかりの人々が気遣い
	雅子さま		参与等工夫を 所功・京都産業大教授(日本法制史) の話
	英タイムズ記事に宮内庁が抗議検討		皇太子さまの訪欧前会見での発言 要旨
			面会約40分間 「いろいろな話」 湯浅長官会見
			きょう結婚記念日
			宮内庁 一体となって努力を 解説
			皇太子さまが発表された説明の文 書は次の通り(原文のまま) 皇太子さまの文書(全文) 「具体的な内容公表は有益でない」/ 「心配かけて心が痛む」

見出しに注目すると、各紙でいくつかの違いが見られた。

(A) 朝日「皇太子さまの異例発言の経緯」では、2002年12月5日まで遡って皇太子さまのこれまでのご発言について報道した。(S) 産経は「湯浅宮内庁長官一問一答」を掲載した。(M) 毎日は、イギリスのタイムズ紙の記事に対し、宮内庁が抗議を検討していることを伝えた。

(Y) 読売は《きょう結婚記念日》という見出しを用い、皇太子ご夫妻が11年目の結婚記念日を迎えられたことを伝えた。この記事に掲載したのは(Y) 読売だけだった。

② NWP グラフによる比較

表2.14 記事開始・終了段数、面積一覧

(A) 朝日				(S) 産経				(M) 毎日				(Y) 読売			
頁	総面積 (cm ²)	開始段数 (段)	終了段数 (段)	頁	総面積 (cm ²)	開始段数 (段)	終了段数 (段)	頁	総面積 (cm ²)	開始段数 (段)	終了段数 (段)	頁	総面積 (cm ²)	開始段数 (段)	終了段数 (段)
1	225.76	5	10	1	449.50	1	10	1	191.80	1	5	1	142.88	1	5

下図2.10より明らかなように、(A) 朝日以外の新聞社はいずれも1段目から記事を掲載していた。(S) 産経は高さが9段の記事を1段目・右上の場所に掲載し、(Y) 読売は

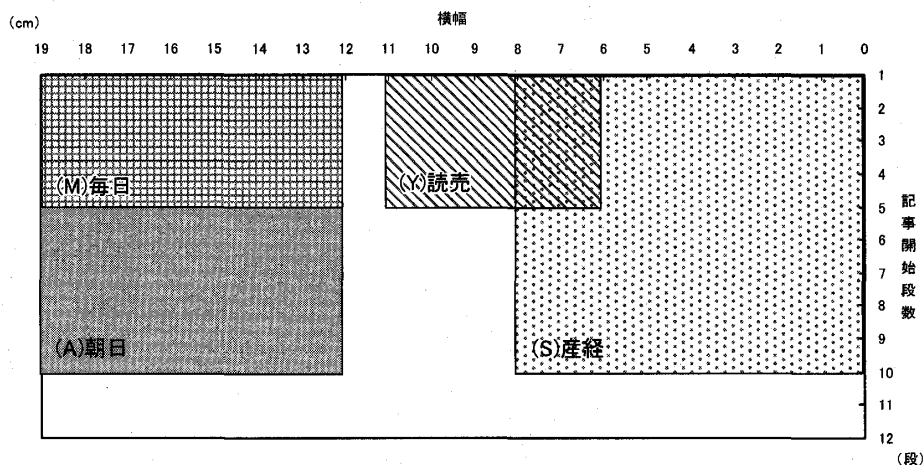


図2.10 NWPグラフ (2004.6.9-1面)

高さが4段の記事を1面の真ん中あたりの1段目に配置した。(M) 毎日が高さ4段の記事を1面の左上の場所に掲載していた。

(A) 朝日のみ高さが5段の記事を、左下の5段目の位置に配置していた。記事の大きさは、(S) 産経 > (A) 朝日 > (M) 毎日 > (Y) 読売 の順であり、各紙の1面の記事の配置とその大きさから考えると、1段目の右上の位置から開始した(S) 産経の「敬意の度合い」がもっとも高かったことが読み取れる¹²。

以上、対象期間中においてポイントとなる日の①見出し比較と②NWPによる比較を行い、各紙の報道の違いを読み取ることができた。

II-5 「開始段荷重グラフ (SRW グラフ)」

新聞紙面では、たとえば、Aという出来事を伝える記事が、同じ面にあるBという記事よりも高い場所に配置された場合、AはBに比べて重要度が高いことを示すと考えられる。つまり、記事の「高さ」は、その出来事の重要性を示す荷重要素のひとつとして捉えることができる。さらに、その記事が皇室に関するものである場合、その記事の「高さ」は、皇室に対する「敬意の高さ」に対応すると考えられる。

本章では、対象期間中の各紙が「人格否定」発言の記事をどの「高さ」と「大きさ」で報道したかについて、「開始段荷重グラフ (Graphs of Start-line Reverence Weights [SRW グラフ])」を用いて分析する。

次の表2.15は、各紙の「人格否定」発言に関する記事の開始段数と終了段数、および記

12 この日の1面以外の各紙の記事は、すべて1段目から始まっている。

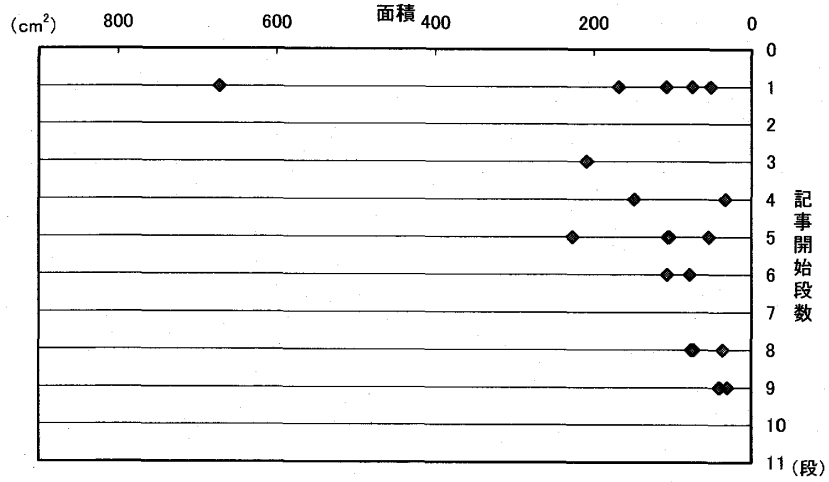
事面積のデータ一覧である。この表をもとに、「SRWグラフ」を作成する。

表2.15 各紙別記事の開始・終了段数と面積の一覧

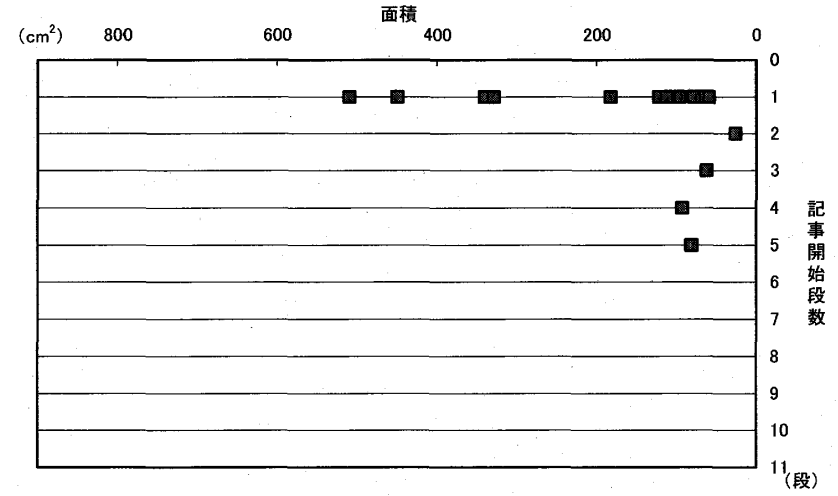
日付	(A) 朝日				(S) 産経				(M) 毎日				(Y) 読売			
	頁	総面積 (cm ²)	開始段数 (段)	終了段数 (段)	頁	総面積 (cm ²)	開始段数 (段)	終了段数 (段)	頁	総面積 (cm ²)	開始段数 (段)	終了段数 (段)	頁	総面積 (cm ²)	開始段数 (段)	終了段数 (段)
5.11	34	208.46	3	9	28	339.90	1	9	28	306.80	1	8	34	236.06	1	6
	e-14	32.98	4	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5.12	e-14	36.30	8	9	e-12	92.16	4	8	e-8	36.04	6	8	34	81.40	5	7
5.13	38	103.95	5	9	3	328.80	1	8	25	459.04	1	6	38	239.20	1	7
5.14	38	148.50	4	9	30	121.80	1	7	26	66.00	5	8	38	127.60	6	9
5.15	34	41.25	9	10	30	81.00	5	8	30	155.76	8	10	33	550.26	1	7
5.18	34	168.00	1	4	30	95.69	1	4	26	188.84	2	8	34	63.64	6	8
5.22	-	-	-	-	3	182.35	1	7	26	37.40	6	8	-	-	-	-
5.24	e-18	106.00	5	8	e-12	73.98	1	5	e-8	55.70	7	8	e-18	73.44	5	7
5.25	34	107.84	1	6	30	112.34	1	5	4	446.48	1	7	34	28.70	6	8
5.28	38	76.23	8	10	30	73.14	1	3	28	63.92	7	9	38	92.50	5	8
5.29	34	78.21	6	9	30	25.88	2	4	28	25.84	9	10	34	37.00	7	8
6.5	38	72.93	8	10	30	78.28	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-
6.9	1	225.76	5	10	1	449.50	1	10	1	191.80	1	5	1	142.88	1	5
	14	672.00	1	11	3	510.07	1	8	14	397.48	1	11	39	822.48	1	11
6.10	-	-	-	-	-	-	-	-	e-10	42.16	7	8	-	-	-	-
6.11	38	51.48	1	3	-	-	-	-	26	141.44	1	3	-	-	-	-
6.12	34	74.80	1	3	28	62.56	3	5	2	37.40	6	7	38	99.68	3	8
6.15	38	106.92	6	9	-	-	-	-	30	69.36	4	8	38	86.40	2	7
6.19	38	30.36	9	10	-	-	-	-	-	-	-	-	38	41.44	1	3
6.22	38	54.00	5	10	-	-	-	-	3	92.16	8	10	-	-	-	-
6.25	-	-	-	-	-	-	-	-	30	84.32	1	3	-	-	-	-
6.26	34	39.96	9	10	29	59.23	1	4	30	22.14	10	11	38	41.44	5	7

次に示す図2.11は、各紙の「人格否定」発言に関する「記事の開始段数」と「記事の面積」との関係を図表上に表示したものである。このグラフの縦軸は記事の「開始段数」をあらわし、横軸は「記事の面積」を示している。グラフ上にプロットされた各点は、対象期間中の各紙の記事の開始段数と記事面積値を同時にあらわしている。

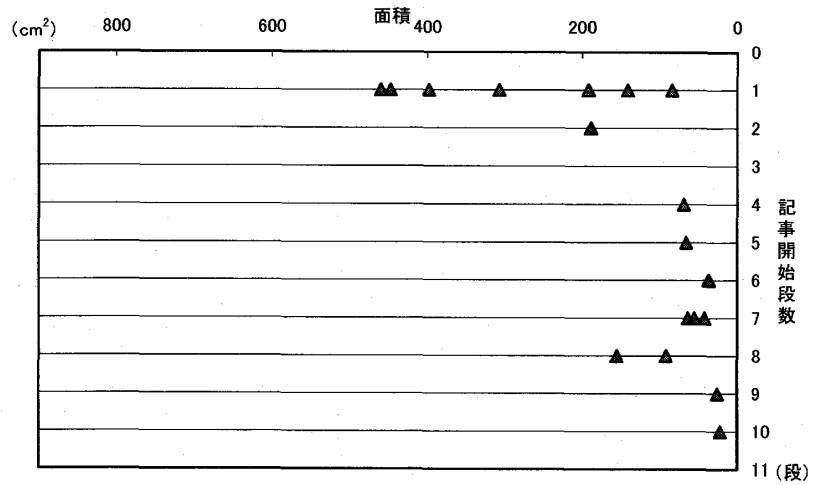
以下、このグラフを用いて、新聞各社が「人格否定」発言に関する皇室報道の際に、記事をどれほどの「高さ」と「大きさ」で報道していたかについて分析する。



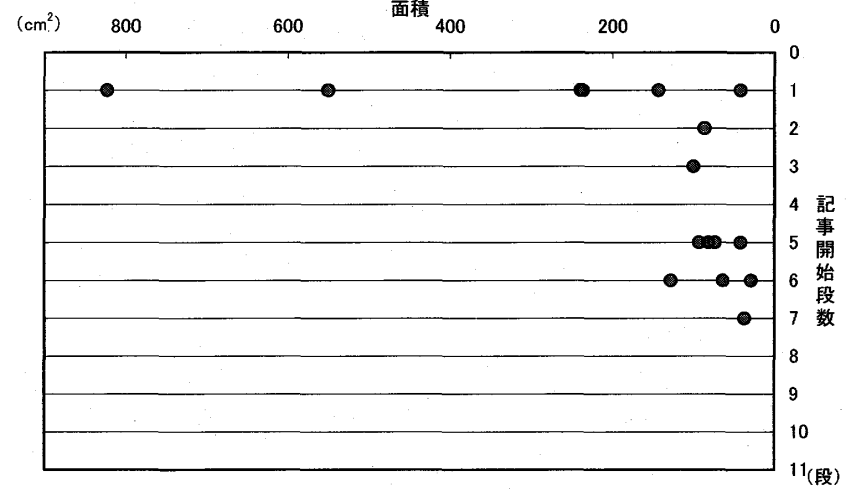
(A) 朝日



(S) 産経



(M) 毎日



(Y) 読売

図2.11 各紙別開始段荷重グラフ(SRW)
 図2.11 各紙別開始段荷重グラフ (SRW)

考察

図2.11のグラフでは、左に行くほどその記事の面積が大きくなり、プロットされた点が上段にあればあるほど、その記事が高い段から始まっていたことをあらわしている。

(A) 朝日

(A) 朝日は、グラフの右側部分に、1段目から9段目の上下の広い範囲にかけて菱形の点(◆)がプロットされている。(A) 朝日は全20本の記事のうち、5本を1段目から開始していた。

また、記事の面積は約200cm²以下のものが多く、(A) 朝日の中でもっとも大きな記事は672.00cm²の1本だった。

(S) 産経

(S) 産経は1段目の部分に四角の点(■)が集中しており、全16本の記事のうち12本が1段目から開始されていた¹³。また、他の3紙と比べると、6段目より下から開始した記事は1本もなかった。

以上のことから、(S) 産経はほとんどの記事を1段目に配置し、また、比較的高い場所に記事を掲載していたことが読み取れる。

(M) 毎日

(M) 毎日も(A) 朝日と同様、上下の広い範囲(1段目から10段目の部分)にかけて三角(▲)の点がプロットされている。(M) 毎日は全20本の記事のうち、1段目から開始したものは7本であり、それ以外の記事は4段目以下の部分に集中している。

(A) 朝日と(M) 毎日は、(S) 産経や(Y) 読売に比べて、紙面の低い位置にも記事を配置していたことがわかる。

(Y) 読売

(Y) 読売のグラフは、グラフの左側まで丸の点(●)が広がっており、1段目から7段目の範囲でプロットされている。(Y) 読売は、4紙中最大の面積の記事(822.48 cm²)を1本掲載し、全16本のうち1段目から開始していた記事は6本であった。

13 記事の面積と開始段の値が近いために、グラフ上ではプロットされた点が重なっている。

SRWグラフからは、以上のことを読み取ることができた¹⁴。

Ⅲ 結論

前章までの分析では、わたしたちが独自に開発した「紙面記事荷重グラフ（News Weight Pattern Graph [NWPグラフ]）」を用いて、各紙の「皇室報道」のパターンを図によってビジュアルに提示することができた。また、「開始段荷重グラフ（Start-line Reverence Weights [SRWグラフ]）」と「ご」の頻度と面積の分析により、日本の4大新聞における「皇室」に対する「敬意」の違いについて考察することができた。

本章ではさらに、記事の開始段ごとに評価点数をあたえた「開始段荷重指数（Start-line Reverence Weights Index [SRWI]）」を用いて、各紙の「皇室」に対する「敬意」の違いをより明確に示すことを試みる。ここから、日本の新聞メディアが皇室に対し、どれほどの「敬意の度合い」を示しているのかについて考察する。

Ⅲ-1 「開始段荷重指数（SRWI）」による「敬意度」の分析

次の表3.1は対象期間中のすべての記事の開始段数の高さごとに点数（10点～1点）をあたえたものである。

1段目から開始した記事を10点とし、2段目から開始した記事を9点、以降、順に点数をつけていき、10段目から開始した記事を1点とする。さらに、各段数の評価点の差異を明確にするため、得られた点数を2乗する。そこにそれぞれの記事の面積値をかけあわせたものを「開始段荷重指数（Start-line Reverence Weights Index [SRWI]）」とよぶ。

SRWIは記事のスタート位置の高さという「敬意」の要素と、面積値という各紙の「人格否定」発言に対する「重みづけ」をあらわした指数である。

14 それぞれの新聞社の記事の中で、面積がもっとも大きいものは、SRWグラフにおいてすべて1段目のライン上にプロットされた。紙面では、高い段から記事を開始すると下に残されるスペースが広がるので記事の面積は大きくなり、逆に記事の開始段数が低ければ、残されたスペースが減少するので、面積が小さくなるといえる。

表3.1 面積・開始段・評価点数・SRWIの一覧

	(A) 朝日新聞						(M) 毎日新聞					
	日付	頁	総面積 (cm ²)	開始段数 (段)	評価点数 (2乗値)	SRWI	日付	頁	総面積 (cm ²)	開始段数 (段)	評価点数 (2乗値)	SRWI
(A) 朝日新聞	5.11	34	208.46	3	8(64)	13341.44	5.11	28	306.80	1	10(100)	30680.00
		e-14	32.98	4	7(49)	1616.02	5.12	e-8	36.04	6	5(25)	901.00
	5.12	e-14	36.30	8	3(9)	326.70	5.13	25	459.04	1	10(100)	45904.00
	5.13	38	103.95	5	6(36)	3742.20	5.14	26	66.00	5	6(36)	2376.00
	5.14	38	148.50	4	7(49)	7276.50	5.15	30	57.40	8	3(9)	516.60
	5.15	34	41.25	9	2(4)	660.00	5.18	26	97.30	2	9(81)	7881.30
	5.18	34	93.80	1	10(100)	9380.00	5.22	26	37.40	6	5(25)	935.00
	5.24	e-18	106.00	5	6(36)	3816.00	5.24	e-8	55.70	7	4(16)	891.20
	5.25	34	107.84	1	10(100)	10784.00	5.25	4	446.48	1	10(100)	44648.00
	5.28	38	76.23	8	3(9)	686.07	5.28	28	63.92	7	4(16)	1022.72
	5.29	34	78.21	6	5(25)	1955.25	5.29	28	25.84	9	2(4)	103.36
	6.5	38	72.93	8	3(9)	656.37	6.9	1	191.80	1	10(100)	19180.00
	6.9	1	225.76	5	6(36)	8127.36		14	397.48	1	10(100)	39748.00
		6.11	38	51.48	1	10(100)	5148.00	6.10	e-10	42.16	7	4(16)
	6.12	34	74.80	1	10(100)	7480.00	6.11	26	141.44	1	10(100)	14144.00
	6.15	38	106.92	6	5(25)	2673.00	6.12	2	37.40	6	5(25)	935.00
	6.19	38	30.36	9	2(4)	485.76	6.15	30	69.36	4	7(49)	3398.64
	6.22	38	54.00	5	6(36)	1944.00	6.22	3	92.16	8	3(9)	829.44
	6.26	34	39.96	9	2(4)	159.84	6.25	30	84.32	1	10(100)	8432.00
	計	-	2,361.73	-	919	147458.51	6.26	30	22.14	10	1(1)	22.14
						計	-	2,730.18	-	1012	223222.96	

	(S) 産経新聞						(Y) 読売新聞					
	日付	頁	総面積 (cm ²)	開始段数 (段)	評価点数 (2乗値)	SRWI	日付	頁	総面積 (cm ²)	開始段数 (段)	評価点数 (2乗値)	SRWI
(S) 産経新聞	5.11	28	339.90	1	10(100)	33990.00	5.11	34	236.06	1	10(100)	23606.00
	5.12	e-12	92.16	4	7(49)	4515.84	5.12	34	81.40	5	6(36)	2930.40
	5.13	3	328.80	1	10(100)	32880.00	5.13	38	239.20	1	10(100)	23920.00
	5.14	30	121.80	1	10(100)	12180.00	5.14	38	127.60	6	5(25)	3190.00
	5.15	30	81.00	5	6(36)	2916.00	5.15	33	550.26	1	10(100)	55026.00
	5.18	30	95.69	1	10(100)	9569.00	5.18	34	63.64	6	5(25)	1591.00
	5.22	3	182.35	1	10(100)	18235.00	5.24	e-18	75.60	5	6(36)	2721.60
	5.24	e-12	73.98	1	10(100)	7398.00	5.25	34	28.70	6	5(25)	717.50
	5.25	30	112.34	1	10(100)	11234.00	5.28	38	92.50	5	6(36)	3330.00
	5.28	30	73.14	1	10(100)	7314.00	5.29	34	37.00	7	4(16)	592.00
	5.29	30	25.88	2	9(81)	2096.28	6.9	1	142.88	1	10(100)	14288.00
	6.5	30	78.28	1	10(100)	7828.00		39	822.48	1	10(100)	82248.00
	6.9	1	449.50	1	10(100)	44950.00	6.12	38	99.68	3	8(64)	6379.52
		3	510.07	1	10(100)	51007.00	6.15	38	86.40	2	9(81)	6998.40
	6.12	28	62.56	3	8(64)	4003.84	6.19	38	41.44	1	10(100)	4144.00
	6.26	29	59.23	1	10(100)	5923.00	6.26	38	41.44	5	6(36)	1491.84
計	-	2,686.68	-	1430	256039.96	計	-	2,766.28	-	980	233174.26	

次の表3.2は、上表3.1から面積、評価点数、SRWIの各合計値を抽出したものである。

表3.2 各紙別合計値の一覧

	(A) 朝日	(S) 産経	(M) 毎日	(Y) 読売
評価点数の合計 (点)	919	1430	1012	980
面積値の合計 (cm ²)	2361.73	2686.68	2730.18	2766.28
SRWIの合計 (ポイント)	147458.51	256039.96	223222.96	233174.26

各紙の評価点数を比較すると、(S)産経が1430点と、最も点数が高かった。逆に(A)朝日は評価点数がもっとも低く、919点だった。このことから、4紙の中で(S)産経がより高い位置から開始する記事が多く、(A)朝日はより低い位置で「人格否定」発言について報道していたといえる。

さらに、各記事の評価点数に面積値を掛け合わせたSRWIの値を比較すると、(S)産経が最も高く(256039.96ポイント)、(A)朝日がもっとも低い値(147258.51ポイント)だった。皇室に関連する報道においては、全紙中(S)産経がもっとも「敬意度」が高く、(A)朝日のそれは最も低かったといえる。

以上、SRWIの値を比較することにより、各新聞社の皇室に対する「敬意の度合い(=敬意度)」の違いを分析することができた。

Ⅲ-2 日本の新聞の皇室報道の特徴

本稿の分析で得たデータを①総面積、②高さ、③「ご」の頻度、④「ご」の面積、⑤SRWIの項目ごとに再検討し、各項目の分析結果を考察する。各項目の値が大きい順に4点から1点の点数をあたえ、各紙の合計点数を算出する。

表3.3 各項目の点数一覧

	(A) 朝日	(S) 産経	(M) 毎日	(Y) 読売
①面積 (cm ²)	1点 (2361.73)	2点 (2686.68)	3点 (2730.18)	4点 (2766.28)
②「高さ」(点)	1点 (919)	4点 (1430)	3点 (1012)	2点 (980)
③「ご」の頻度(回)	1点 (2)	4点 (19)	2点 (4)	3点 (5)
④「ご」の面積 (cm ²)	1点 (0.64)	4点 (9)	3点 (1.76)	2点 (1.28)
⑤「開始段荷重指数 (SRWI)」	1点 (147458.51)	4点 (256039.96)	2点 (223222.96)	3点 (233174.26)
合計点数	5点	18点	13点	14点

注：()内は各項目の値をあらわす

表3.3より、5つの項目の合計点数がもっとも高かったのは、18点の(S)産経である。(S)産経は皇室に対して、もっとも「敬意度」が高かったといえる。その次は14点の(Y)読売で、続いて(M)毎日(13点)の順であった。

逆に、皇室に対する敬意の度合いが最も低かったのは、5点の(A)朝日だった。(A)朝日はすべての項目で最下位であり、4紙の中でもっとも皇室に対する「敬意度」が低か

ったといえる。

Ⅲ-3 「敬意度」と報道量の相関

次の図3.1は、図2.2 (本稿69頁) の6月9日以降の部分拡大したものである。

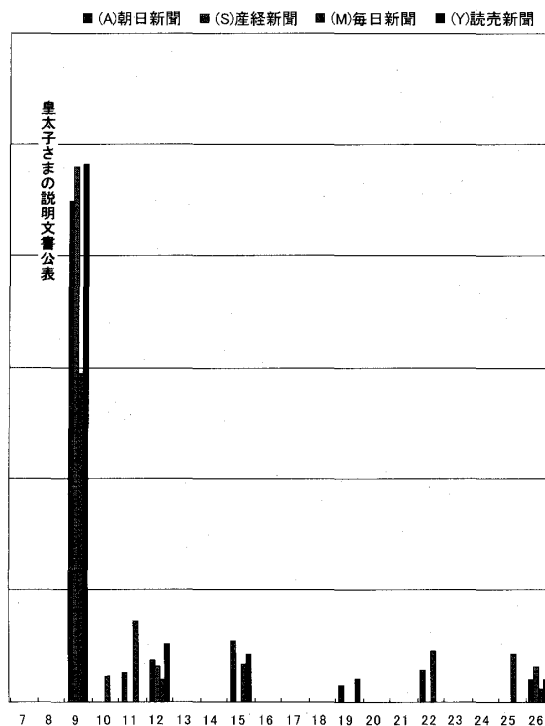


図3.1 各紙の報道量の変遷 (2004.6.9~6.26)

6月9日、各紙は宮内庁が公表した皇太子さまの「人格否定」発言に関する説明文書について報道した。以下は、その内容の一部である。

皆さんに何よりもお伝えしたいことは、今後、雅子本人も気力と体力を充実させ、本来の元気な自分を取り戻した上で、公務へ復帰することを心から希望しているということです。雅子の復帰のためには、いろいろな工夫や方策も必要と考えますし、公務のあり方も含めて宮内庁ともよく話し合っていきたいと思っています。多くの方の暖かいお励ましに、私も雅子もたいへん感謝をしています。雅子が早く健康を回復し、復帰できるよう、私自身も全力で支えていくつもりです。

最後に、雅子の回復のためには静かな環境が何よりも大切と考えますので、引き続

き暖かく見守っていただければ幸に存じます。(宮内庁 2004b: 下線は引用者)

図3.1を見ると、文書が公表された9日を境にして、翌10日以降の報道量が各紙とも大幅に減少していることが分かる。これは、皇太子さまの説明文書を受け、各紙が「静かな環境をつくる」=「報道しない」ことで、皇太子ご夫妻に対して配慮する姿勢をあらわしていると考えられる。

以下の表3.4は、10日以降の各紙の報道量を合計したものである。

表3.4 各紙の報道量 (2004.6.10~6.26)

	報道量 (cm ²)
(A) 朝日	357.52
(S) 産経	121.79
(M) 毎日	488.98
(Y) 読売	268.96

表より報道量の多い順に、(M) 毎日 > (A) 朝日 > (Y) 読売 > (S) 産経である。

この期間の各紙の報道量を比較すると、以下のことを読み取ることができる。

① (S) 産経・(Y) 読売の「抑制」

6月9日直後の10日・11日の報道量に注目すると、(S) 産経と (Y) 読売は「人格否定」発言に関する報道をまったくしていなかった。表3.4においても明らかなように、(S) 産経の報道量は121.79cm²と4紙中もっとも低く、この期間において報道量を「少なくする」ことは、皇太子ご夫妻に対する「配慮」を示していると考えられる。

また、(Y) 読売の報道量も4紙中3番目であり、この期間中は報道を「抑制」していたといえる (268.96cm²)。

以上のことから、(S) 産経と (Y) 読売が報道を「抑制」し、皇室に対して「配慮」を示すことは、そのまま皇室に対する「敬意の度合い」に対応していたと考えられる。

② (M) 毎日・(A) 朝日の「饒舌」

逆に、この期間中に報道量をもっとも多かったのは (M) 毎日であった (488.98cm²)。

皇太子さまの「人格否定」発言についての説明文書の報道があった翌日の10日、(M)

毎日は「英紙に皇太子さまの記事があった」と報道し、翌11日にも雅子さまについて触れた米紙の報道を紹介し、皇太子ご夫妻に対する海外紙の報道について伝えていた。また、6月12日と15日、22日と25日にも報道した。

また、(A)朝日についても357.52cm²と報道量が最小の(S)産経の約3倍であり、4紙の中で2番目に報道量が多かった。

皇太子さまの「静かな環境をつくる」というご要望に対して、皇室について「饒舌」に語る（＝報道量を「多くする」）ことは、皇室に対する「敬意」の「低さ」につながると考えられる。

以上の分析の結果より、各紙の皇室に対する「敬意度」の違いが、それぞれの新聞社の「報道量」に対応していたといえるだろう。

IV 課題と展望

本稿では各紙の「人格否定」発言の報道におけるさまざまな荷重要素を比較・検討することによって、各紙の皇室に対する「敬意度」の違いを分析してきた。これらは、時系列の「荷重グラフ」や、「紙面記事荷重グラフ（News Weight Pattern Graph（NWP）」、「開始段荷重グラフ（Graphs of Start-line Reverence Weights [SRW]）」など、各紙の「敬意の度合い」を視覚的に示すツールによって得ることができた。

最後に、本稿で得られた知見をもとに、前章までの分析方法を援用して、2005年6月27日の天皇・皇后両陛下の「サイパン慰霊訪問」に関する報道を検討する。

IV-1 天皇・皇后両陛下の「サイパン慰霊」報道

2005年6月27日に、天皇・皇后両陛下は太平洋戦争の激戦地となったサイパン島の「バンザイクリフ」などの戦跡や戦没者慰霊碑を訪問され、戦没者を慰霊された。

次の図4.1は、サイパン慰霊訪問を報道する2005年6月27日の(A)朝日・(S)産経・(M)毎日・(Y)読売のそれぞれの夕刊の1面である¹⁵。

15 いずれも大阪版の原版を使用し、本章のデータはすべて実寸を用いている。



(A) 朝日



(S) 産経



(M) 毎日



(Y) 読売

図4.1 各紙1面 (2005年6月27日夕刊)

表4.1 見出し一覧 (2005年6月27日夕刊1面)

(A) 朝日					(S) 産経				
見出し	面積 (cm ²)	開始段 (段)	終了段 (段)	記事開始ライン (cm)	見出し	面積 (cm ²)	開始段 (段)	終了段 (段)	記事開始ライン (cm)
サイパンへ両陛下出発 初の慰霊訪問	99.4	11	13	左0	両陛下 戦後60年慰霊の旅 サイパンへご出発 行事見送るも高まる歓迎ムード	524.4	1	11	0
(M) 毎日					(Y) 読売				
見出し	面積 (cm ²)	開始段 (段)	終了段 (段)	記事開始ライン (cm)	見出し	面積 (cm ²)	開始段 (段)	終了段 (段)	記事開始ライン (cm)
サイパン訪問両陛下が出発	49.7	8	10	4	「海外で、命失った人々を追悼」 両陛下 サイパンへ出発	270.96	4	9	7.4

注) 「記事開始ライン」は、紙面の右端から記事までの長さをあらわし、「左0」は記事がその面の左端に配置されていることを示す。

各紙の1面から「紙面記事荷重グラフ（News Weight Pattern Graph）」を作成すると、次の図4.2のようになる。

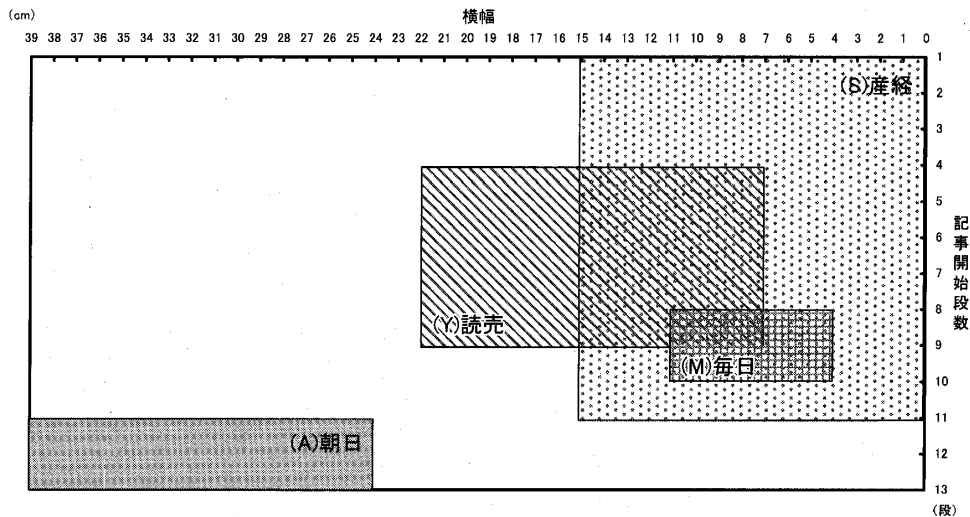


図4.2 NWPグラフ（2005.6.27-夕刊1面）

「サイパン慰霊」報道における各紙の特徴

① 見出し・記事の比較

まず、記事の場所をNWPグラフ（図4.2）によって比較すると、(S)産経は1段目・右上の場所に記事を配置している。それとは対照的に、(A)朝日の記事は、1面の左下の部分に割り付けられている。

各紙の「出発」を報じる見出しを比較すると、(A)朝日が《サイパンへ両陛下出発》、(M)毎日《サイパン訪問両陛下が出発》、(Y)読売が《両陛下 サイパンへ出発》と報道している中、(S)産経のみが《サイパンへご出発》という「ご」を用いた敬語の表現を用いていた。

また、(S)産経は、4紙中、もっとも記事が大きかった（524.4cm²）。逆に、もっとも記事面積が小さい新聞社は（M）毎日であった（49.7cm²）¹⁶。

16 写真を掲載した新聞社は、(S)産経と(Y)読売である。ともに天皇・皇后両陛下が政府専用機のタラップに立つ姿をそれぞれ違う角度から撮影している。(S)産経が、政府専用機に描かれた国旗（日の丸）を背景にした写真を採用していることが興味深い。

② SRWIによる分析

各紙のそれぞれの記事の開始段数に点数（11～1点）をあたえ、それに記事の面積値をかけあわせたものをSRWIとして算出する。1段目から開始した記事を11点とし、2段目を10点、以降、順に点数をつけていき、11段目から開始した記事に1点の点数をあたえる。

以下の表4.2は、以上の手順で算出された各紙のSRWIの一覧である。SRWIを用いて、各紙の「敬意度」を検討する。

表4.2 各紙別SRWI一覧

	面積 (cm ²)	開始段数 (段)	評価点数 (点)	SRWI (ポイント)
(A) 朝日	99.4	11	1	99.4
(S) 産経	524.4	1	11	5768.4
(M) 毎日	49.7	8	4	198.8
(Y) 読売	271.0	4	8	2168.0

各紙のSRWIを比較すると、上表より明らかなように、(S) 産経のSRWIがもっとも大きかった (5768.4)。2位は2168.0の(Y) 読売で、(M) 毎日は3位 (198.8)、そしてもっともSRWIが小さかったのは(A) 朝日だった (99.4)。

以上、「サイパン慰霊」の報道においても、本稿の「人格否定」発言の分析と同様、皇室に対する「敬意度」がもっとも高かったのは、(S) 産経であった。逆に、「敬意度」がもっとも低かったのは(A) 朝日であった。2位が(Y) 読売、3位が(M) 毎日という順番も、前章までの分析結果と重なっている。

IV-2 残された課題

新聞紙面には「見出し」、「記事面積」、「写真」、「記事・見出しの文字数」、「記事の割付け」などさまざまな荷重要素がある。

本稿では、主に「皇室報道」に関する記事面積、記事の開始段数、見出しにおける「ご」表現の頻度・面積に注目し、分析を行ってきた。得られた各値をグラフ上にプロットイングして時系列の「荷重グラフ」や「開始段荷重グラフ (SRWグラフ)」を作成し、さらに「開始段荷重指数」を算出することで、各紙の報道の特徴を比較・検討した。

最後に、分析を通して気づいたいくつかの課題について述べる。

紙面における記事の配置

本稿では、「高さ」のみにポイントをしぼることによって、どの面の記事であっても分析を適用することができた。しかし、第1面に記事が掲載される場合とそれ以外の面に掲載される場合とでは、重要度には差があると考えられる。

また、同じ面における記事配置にも重要度の違いがある。本章の「サイパン慰霊」報道の分析から明らかなように、第1面では、右上の場所は特に重要な記事が配置される。その他の面では、大きな記事がどの場所に配置されるかは、一定しておらず、その面のレイアウトに左右される。このように、ある面におけるある記事の重要性は、「高さ」だけでなく、左右の位置をも考慮に入れて比較する必要があるだろう¹⁷。

各国の「王室報道」の比較

タイや日本だけでなく、世界には王室が存在する国は他にもたくさんある。イギリスに代表されるヨーロッパの王室やアジアの国々の王室については、その国独自の王室報道の方法があり、同時に、各メディアの「敬意」のあらわれ方も多様に存在すると思われる。

本稿では、タイの新聞における「王室報道」の視点・特徴をきっかけに、日本の新聞の「皇室報道」の特徴を比較・検討した。他の国と日本やタイの「皇・王室」報道を比較することによって、また新たな分析の視点が生まれ、より広い視野をもったグローバルな研究が可能となるだろう¹⁸。

17 杉野定嘉は、新聞記事のレイアウトの原則にしたがい、紙面の1ページを縦横三等分割した9個のブロックを設定し、順に9点から、1点の得点を与え、その指数を「記事開始位置」とした（杉野 2004）。

18 タイの国内ではいたるところに国旗が掲げられ、ラジオからは毎日、朝夕の決まった時刻に国歌が流れる。国王や王室に関するトピックはメディアを通じて毎日のように、しかも、常に最大の敬意を込めて伝えられる。新聞では、王室に関する記事は他のどの記事よりも紙面の高い場所に配置して報道される。このようなタイのメディアにおける王室報道の姿勢は、まさにタイ人の王室に対する「敬意」を象徴しているといえる。タイ人にとって王室は国のシンボルであり、国王はタイ人のアイデンティティそのものであり、それはたとえば、オリンピックでメダルを取ったタイの選手が、表彰台で国王の写真を高々と掲げるといった行動にもあらわれている。

現在のタイ社会において、国王の存在は大きく、王室の役割は非常に重要であるため、ここしばらくは、タイのメディアにおける王室の報道に変化が見られることはないだろう。しかし今後、タイの国が現在よりもさらに発展し、人びとが経済的に豊かになるにつれて、タイ社会における国王や王室の影響力が小さくなっていったときに、タイの人々の王室に対する意識は変化すると考えられる。その時、メディアの王室に対する報道は、日本のように、各メディアがそれぞれの立場から王室に対する重みづけをして報道するような、いわば「民主主義的」なメディアのあり方に変化すると考えられる。

もちろん、日本の皇室とタイの王室にはその歴史的背景に大きな違いがある。特に、第二次世界大戦における両国の経験の違いは、戦後のタイと日本におけるロイヤルファミリーのあり方や、日本人の皇室に対する意識に大きな影響を及ぼしている。本稿の分析で明らかになったように、日本の新聞メディアにおける皇室報道は、「写真」、「記事の配置場所」、「記事の内容」、「敬語」など、新聞各社によって「敬意の度合い」にさまざまな違いが見出された。しかし、現在の皇室にとって、マス・メディアの果たす役割は非常に大きい。人びとの「皇室」に対する敬意のあり方如何に関わらず、折にふれて「皇室報道」が行われることによって、日本人は自分たちの国

むすびにかえて

新聞は、単に情報の「内容 (message)」を伝達するだけでない。新聞は、限られた2次元平面上に多様な記事を選択的に配列することによって、出来事の「荷重 (semio-weight)」（重要性や評価）を差異化して伝達する特異な媒体である。どの記事を紙面のどこへ割付けるか、見出しのキーワードを何にするか、語句をどのぐらいの大きさと組むか、といった選択的所作によって、新聞は編集者の正負の荷重評価を明示的・暗示的に表現・伝達していると考えられる。

「見出し」や「割り付け」といった荷重要素は、注意の喚起と予期の誘導、価値の分極・順序化といった重要な機能を果たしているにもかかわらず、「内容」そのものを読み取るうとする読者には意識されにくい。メッセージ内容を指向する意識には、メッセージの荷重成分（メタ・メッセージ）はそれと気づかれぬまま無意識のうちに受容されてしまう傾向がある。われわれは一連の荷重報道研究をつうじて、新聞報道のもつこれら暗黙の要素を指標化し、グラフを用いて、可視的に表現する方法を模索してきた。それは、新聞の「無意識」の次元に科学的な探照の光りを投げようとするひとつの工夫でもある。

タイから日本に留学したハンナロンは、日本の新聞が皇室での行事や出来事を報じる際に、タイ国の新聞とくらべて記事の割付け位置に顕著な差異があることに驚いた。タイでは王室に関連するほとんどすべての報道記事がつねに最上位の段に掲載されるのに対し、日本では新聞により、記事の掲載位置がまちまちなのである。ハンナロンは、記事の開始位置（この場合は開始段数）を王室にたいする意識的・無意識的な「敬意」の表現とみることはできないだろうかと考え、開始段数による敬意度（正の荷重）の指標化をこころみた。また、タイの王室報道においては常に敬語が使用されることから、日本の皇室報道における敬語の使用について検討し、見出しにおける「ご」の使用頻度を測定して比較した。

折しも、2004年5月10日の記者会見における皇太子の「人格否定」発言をめぐる報道合戦が留学中に発生した。筆者らは、この発言をめぐる日本の4大新聞がどのような報道を展開したか、一連の事態の推移を「荷重グラフ」を作成して比較分析した。その結果、朝日、産経、毎日、読売の各紙で、有意な差異が検出された。いうまでもなく、われわれの研究は萌芽的な段階に留まっている。しかし、日本とタイの王室報道の差異に加えて、この研究を通じて明らかになった日本の新聞各社の報道姿勢の差は、民主主義国における

に「皇室」があることを無意識のうちに再確認する。それぞれの国民の意識の中に「皇室」や「王室」に対する「敬意」が再生産される限り、今後も皇室や王室がなくなることはないだろう。

王室の存在意義とメディアの対応のあり方を検討するためのひとつの資料としての意義はもちうるだろう。研究を継続することで荷重報道分析に洗練を加え、新しいメディア・ウォッチングの方法としての発展を期したい。

【文献】

- 天野恵一、1990、『マスコミじかけの天皇制』インパクト出版会。
- 朝日新聞社用語幹事編、2005、『朝日新聞の用語の手引』朝日新聞社。
- 朝日新聞整理部、1983、『あなたも編集者—広報・社内報・機関誌・会報の作り方』大阪書籍。
- 浅野健一、1997、『天皇の記者たち—大新聞のアジア侵略』スリーエーネットワーク。
- Berelson, B.R., 1952, *Contents Analysis in Communication Research*, New York, Free Press (=1957、稲葉三千男・金圭煥訳、「内容分析」『社会心理学講座7 大衆とマスコミュニケーション(3)』みすず書房。)
- Craig J. Reynolds, 2002 (1991), *National Identity and Its Defenders: Thailand Today*, Silkworm Books.
- 藤田真文、1992、「内容分析研究における『量化』の展開と批判」『慶応義塾大学新聞研究所年報』38: 53-72。
- Hannarong, Charn, 2005、『日本の4大新聞における皇室報道比較研究—皇太子さまの「人格否定」発言を事例として』関西大学大学院社会学研究科修士論文。
- 橋元良明、1983、「内容分析における語用論的視点—テレビCM記号論的分析の試み」『新聞学評論』32: 37-53。
- 福井逸治、1994、『新聞記事作法』三一書房。
- 堀江湛・小林良彰、1981、「同時選挙をめぐる三大紙の内容分析—大平総理の死去と新聞報道」『新聞学評論』30: 219-236。
- 堀江湛・城所洋子、1978、「新自由クラブの躍進と新聞報道—総選挙における新聞報道の内容分析」『新聞研究』319: 65-71。
- 池信敬子、2004、「紙面にあらわれた「重みづけ」要素の比較分析—日本人拉致事件に関する新聞報道をめぐる」『科学研究費補助金研究成果報告書(平成14年度~平成15年度)基盤研究(C)(2)研究課題番号:145102研究課題名:社会的コミュニケーションの多重媒介モデル理論の構築と分析、研究代表者:木村洋二』51-61。
- 池内一、1954、「内容分析の方法について(上)」『東京大学新聞研究所紀要』3: 33-46。
- 、1956、「内容分析の方法について(下)」『東京大学新聞研究所紀要』5: 47-58。
- 稲垣武、1996、『新聞裏読み逆さ読み—マスコミの生理と病理』草思社。
- 色川大吉他編、1990、『天皇制—歴史・王権・大嘗祭(The bungei critics: 5)』河出書房新社。
- 板村英典、2004、「『瀋陽事件』をめぐる荷重報道の比較研究—4大新聞における見出し語を中心に」『人間科学』61: 12-49。
- 市川速水、1993、『皇室報道』朝日新聞社。
- 伊藤成南・浅沼英範・柏木勇一・徳永正裕・芝沼隆一、1992、「現代整理記者論6 見出し(I)」『新聞研究』494: 45-55。
- 、1992、「現代整理記者論7 転機迎える見出し(II)」『新聞研究』495: 77-86。
- 伊藤陽一、1999、「内容分析の可能性と限界(特集 データサイエンス—第2部 データサイエンスの世界)」『Keio SFC review』3(1): 75-80。

- 梶原滉太郎、1986、「新聞の見出しの移り変わり — 昭和60年間の概観」『言語生活』410: 58-65。
- 亀井淳、1990、『皇室報道の読み方』岩波ブックレットNo.168、岩波書店。
- 、1993、『皇太子妃報道の読み方』岩波ブックレットNo.300、岩波書店。
- 木村洋二、1995、『視線と「私」 — 鏡像ネットワークとしての社会』弘文堂。
- 、2004a、「活字サブリミナル 『新聞見出し』は拉致をいかに報じたか — 四大新聞徹底全調査全分析」『諸君!』36(6): 128-138。
- 、2004b、「ソシオン・コミュニケーションの多重媒介モデル」『科学研究費補助金研究成果報告書』1-12。
- 木村洋二・板村英典・池信敬子、2004、「『拉致』問題をめぐる4大新聞の荷重報道 — 多元メディアにおける『現実』の相互構築をめぐって」『関西大学社会学部紀要』35(3): 89-121。
- 、2005、「『拉致』問題をめぐる4大新聞の荷重報道(2) — 小泉首相再訪朝に関する報道と荷重分析」『関西大学社会学部紀要』36(1): 119-154。
- 、2005、「『拉致』問題をめぐる4大新聞の荷重報道(3) — 「日朝実務者協議」を報じる見出し語の分析」『関西大学社会学部紀要』37(1): 1-56。
- 木村洋二・増田のぞみ、2001、「マンガにおける荷重表現 — ページの『めぐり効果』とマンガの『文法』をめぐって」『関西大学社会学部紀要』32(2): 205-251。
- 木村洋二・林文川・板村英典、2003、「李登輝訪日をめぐる4大新聞の荷重報道」『関西大学社会学部紀要』35(1): 157-210。
- 北原恵、2004、「『皇室改革』という言説 — 宮内庁ホームページに見る皇室表象」『現代思想』32(7): 228-237。
- 宮内庁、2004a、「皇太子殿下の外国ご訪問前の記者会見の内容」(<http://www.kunaicho.go.jp/koutaishi/denkakaiken-h16gaikoku.html>, 2005.9.30)。
- 、2004b、「皇太子殿下外国ご訪問前の記者会見内容に関してのご説明(6月8日)」(<http://www.kunaicho.go.jp/koutaishi/koutaishi-h16gosetumei.html>, 2005.9.30)。
- 共同通信社編、2005、『記者ハンドブック 第10版 新聞用字用語集』共同通信社。
- 毎日新聞社編、2002、『毎日新聞用語集』毎日新聞社。
- McQuail,D., 1983, *Mass Communication Theory: An Introduction*, Sage Publication (=1985、竹内郁郎・三上俊治・竹下俊郎・水野博介訳『マスコミュニケーションの理論』新曜社)。
- 真鍋一史、1975、「新聞社説の内容分析 — 石油危機・物不足事件を手がかりとして」『新聞研究』287: 54-59。
- 丸山昇、1993、『皇太子妃とマスメディア』第三書館。
- 増田のぞみ、2004、「『内容分析』手法におけるメッセージの『重みづけ』 — 『報道荷重分析』との比較から」『科学研究費補助金研究成果報告書』93-99。
- 松浦総三、1984、『松浦総三の仕事1 — マスコミのなかの天皇』大月書店。
- 三樹精吉、1966、『新聞の編集と整理』現代ジャーナリズム出版会。
- 水内純清、2000、「新聞の『見出し』による日本語教育」『東アジア日本語教育・日本文化研究』2: 393-399。
- 、2001、「新聞の見出しに見る助詞の省略と効用」『東アジア日本語教育・日本文化研究』3: 181-188。
- 、2002、「統語論にみる新聞見出しの形態研究」『東アジア日本語教育・日本文化研究』5: 129-133。
- 村松泰子、1982、「マス・コミュニケーションの内容」竹内郁郎・児島和人編『現代マス・コミュニケー

ション論』有斐閣、167-197。

中井久夫、1984、『中井久夫著作集1 精神医学の経験 分裂病』岩崎学術出版社。

野口崇子、2002、『『見出し』の“文法”—— 解説への手引きと諸問題』『講座 日本語教育』38: 94-124。

P・L・パリー、2005、『『人格否定発言』は生きている—— 英『タイムズ』紙が見る皇太子殿下のご心情』『中央公論』4月号: 128-131。

歴史教育者協議会編、1989、『日本歴史と天皇古代から現代まで—— 50問50答』大月書店。

佐藤彰、2004、『皇室報道における引用—— その歴史的考察』三宅和子・岡本能里子・佐藤彰編『「マス」メディアのディスコース』ひつじ書房、130-155。

杉野定嘉、2004、『日本の新聞におけるSARS報道について—— 中国報道の宣伝的側面に関する数量分析』『マス・コミュニケーション研究』65: 96-115。

朱京偉、1992、『量的構造から見た新聞見出し』文化言語学編集委員会、『文化言語学—— その提言と建設』三省堂、275-290。

新聞整理研究会、1966、『新聞整理の研究』日本新聞協会。

——、1994、『新編 新聞整理の研究』日本新聞協会。

武市英雄・松本修二郎・山田實・山中正剛、1976、『東京都知事選挙(1975年)をめぐる新聞紙面の分析—— 朝日・毎日・読売・サンケイの四紙を中心にして』『新聞学評論』25: 48-67。

竹下俊郎、1994、『内容分析のツールとしての新聞記事データベース—— 利用に際しての注意点』『新聞研究』516: 60-63。

——、1998、『メディアの議題設定機能』学文社。

竹内郁郎・児島和人・橋本良明、1998、『メディア・コミュニケーション論』北樹出版。

タイ政府観光庁編、2004、『The Kingdom of Thailand—— ゆるやかな思考・社会・暮らし』。

田中伯知、1993、『日本の新聞論調にみる太平洋戦争史観—— 社説、連載、談話・転載記事の内容分析』『慶応義塾大学新聞研究所年報』40: 27-42。

田中哲哉、1998、『新聞の見出しの文法的特徴と機能』『龍谷大学国際センター研究年報』7: 67-77。

田崎篤郎・児島和人編、2003、『マス・コミュニケーション効果研究の展開 改訂新版』北樹出版。

田原総一郎・猪瀬直樹他編、2004、『朝まで生テレビ! 徹底討論! 皇室は必要か』PHP研究所。

天皇報道研究会編、1989、『天皇とマスコミ報道—— 天皇報道はどのように行われたか』三一書房。

渡邊太、2004a、『マス・コミュニケーションの反対効果—— メディア不信のネットワーク動作と情報の濾過』『科学研究費補助金研究成果報告書』101-129。

渡邊太、2004b、『現実感と荷重—— 意味の生成とメディアについての考察』『科学研究費補助金研究成果報告書』131-169。

山際澄夫、2005、『捏造常習犯 朝日のダークサイド』『WILL』11月号: 65-75。

横田耕一、1990、『象徴天皇制と人権』部落解放研究所。

尹榮喆・李光鎬、2000、『日本と韓国の領有権紛争に関する新聞報道の内容分析』『メディア・コミュニケーション』50: 141-155。

読売新聞社編、2005、『読売新聞 用字用語の手引』中央公論新社。

吉田仁志、2003、『英字新聞の見出しの特徴—— 動詞の形態からみた場合』『大阪明浄女子短期大学紀要』17: 35-40。

資料1 「人格否定」発言関連見出し一覧

注)・「頁」のeは夕刊を示す
 ・朝日・毎日・読売新聞の面積値は縮刷版の面積を4倍して原版のサイズに合わせた(単位:cm)
 ・表中のゴシック体は「こ」表現をあらわす

(A) 朝日新聞				(S) 産経新聞				(M) 毎日新聞				(Y) 読売新聞									
日付	頁	見出し	記事開始 段数	記事終了 段数	総面積	頁	見出し	記事開始 段数	記事終了 段数	総面積	頁	見出し	記事開始 段数	記事終了 段数	総面積						
5/11	34	「皇室適応の努力で疲れ切る」「人格否定するような動きも」 雅子さま巡り皇太子さま語る	3	9	208.46	28	雅子さまのご苦悩率直に 皇太子さま、異例の強い表現で 欧州ご訪問控え会見	1	9	339.90	28	皇太子さま訪欧前会見 雅子さまへ気遣い 「人格否定する動き」に悩み 10年間の努力で「疲れきり」 公務復帰は「しばらく時間」 会見要旨	1	8	306.80	34	「単独訪欧、後ろ髪引かれる思い」 「雅子は疲れ切っているようです」 皇太子さま会見 複雑な心情吐露	1	6	236.06	
	e-14	皇太子さま発言背景官房長官「承 知せぬ」	4	5	32.98		ご夫妻にかかる期待のはざままで 皇太子さま会見要旨														
5/12	e-14	皇太子さまは欧州へ出発	8	9	36.30	e-12	皇太子さま欧州へご出発	4	8	92.16	e-8	皇太子さま、欧州へ出発	6	8	36.04	e-14	皇太子さま欧州へ出発	5	7	81.40	
5/13	38	皇太子さま発言 東宮大夫が会見 「しっかり受け止める」	5	9	103.95	3	皇太子さまご発言 東宮大夫急遽会見 ご心痛重く受け止める 雅子さま に一番いいことを 両陛下とご相談 したい 過去の皇太子ご夫妻の海外訪問 雅子さま、ご静養中	1	8	328.80	25	皇太子さま“率直発言”に波紋 矢面の宮内庁「重く受け止め」 ・戸惑い ・抗議も 《雅子さまの様子についての皇太 子さまの会見要旨》 直前まで「同行のご意向」	1	6	459.04	34	皇太子さま発言 「大変なご心痛、重く受け止め」 東宮大夫「対応、努力したい」 意思疎通の努力事務方に不足 解説	1	7	239.20	
5/14	38	皇太子発言 「お話うかがい、改善」 宮内庁長官、定例会見で	4	9	148.50	30	皇太子さまのご発言 両陛下もご心配	1	7	121.80	26	皇太子さま発言「真摯に」 宮内庁長官	5	8	66.00	38	皇太子さまに真意確認へ 宮内庁長官「真摯に受け止め」	6	9	127.60	
5/15	34	「現長官時代のことはない」 皇太子さま、東宮大夫に	9	10	41.25	30	「人格否定の動き」 現長官時のことではない 皇太子さま明かす 東宮大夫会見	5	8	81.00	30	皇太子さま 「雅子さま否定の動き」で伝言 宮内庁現長官でない	8	10	155.76	33	激震 宮内庁 「何してる」メール殺到 皇太子さま異例発言 ・波紋 ・真意 ・背景 ・ご体調 雅子さまの苦悩を巡るご夫妻の発言 「湯浅長官時代ではない」と皇太子さま 林田大夫明かす	1	7	550.26	
5/18	34	「皇太子殿下が改めて説明を」 両陛下の意向、宮内庁側が紹介	1	4	168.00	30	両陛下驚かれる 「国民も心配するだろう」 皇太子ご発言	1	4	95.69	26	皇太子さま会見 両陛下、発言に驚き 宮内庁明かす 側近に「説明が必要」	2	8	188.84	34	皇太子さま発言「具体的な説明を」 「両陛下ご心配」宮内庁が補足	6	8	63.64	
5/22						3	皇太子さま 帰国後、長官とお会いに 人格否定発言 真意をご説明 「失意のチョウ」英紙が特集	1	7	182.35	26	皇太子さま「帰国後面会を」 宮内庁長官へ伝言	6	8	37.40						
5/24	e-18	「励ましの言葉、各国で頂いた」 皇太子さま、欧州から帰国	5	8	106.00	e-12	皇太子さまご帰国	1	5	73.98	e-8	「いつの日か二人で訪欧できれば 幸い」 皇太子さま帰国	7	8	55.70	e-18	皇太子さま帰国 雅子さま同行できず「残念」	5	7	73.44	
5/25	34	両陛下に帰国のあいさつ 皇太子さま	1	6	107.84	30	皇太子さま会見されず 人格否定発言 長官が国民に説明	1	5	112.34	4	皇太子さま「人格否定」発言 真鍋光之(社会部) 望みたい側近との対話 宮内庁は苦悩理解を	1	7	446.48	34	皇太子さま真意宮内長官説明へ	6	8	28.70	

5/28	38	皇太子ご夫妻の相談に「参与も」 宮内庁長官会見	8	10	76.23	30	「公務見直しに努力」 皇太子さま ご発言で長官	1	3	73.14	28	歴代宮内庁長官に両陛下が協力要望 皇太子さま発言	7	9	63.92	38	「皇太子さまのお呼びがない」 宮内庁長官	5	8	92.50
5/29	34	「皇太子さまに時間が必要」 長官面会巡り東宮大夫に	6	9	78.21	30	ご公務見直し「既に検討中」	2	4	25.88	28	皇太子さまの会見見送りへ	9	10	25.84	34	「近いうちにはお会いになる」 東宮大夫	7	8	37.00
6/5	38	皇太子さま真意文書で来週にも	8	10	72.93	30	「人格否定」発言 皇太子さま自ら文書でご説明へ	1	7	78.28										
6/9	1	雅子さま巡る発言 個々動き批判するつもりない 活動、環境づくりが一番大切 皇太子さま説明文書 文書全文	5	10	225.76	1	皇太子さま真意説明の文書公表 雅子さまの経歴生かす活動願う 「個々を批判するつもりない」 皇太子さまの文書全文	1	10	449.50	1	個々の批判するつもりない 雅子さま経歴生かし活動を 「人格否定」発言 皇太子さまが文書	1	5	191.80	1	個々を批判するつもりはなく 現状わかっていただきたかった 皇太子さま文書で真意	1	5	142.88
6/10											e-10	皇太子さま「真意」巡り英紙また報道	7	8	42.16					
6/11	38	雅子さまの公務「やりがい必要」 皇太子さま、長官に	1	3	51.48						26	皇太子ご夫妻と参与の面会希望 宮内庁長官 「プリンセスか、プリズナーか」 重圧に同情、女帝論も 米でも「雅子さま」報道	1	3	141.44					
6/12	34	「皇太子ご夫妻に外部から相談役」 東宮大夫、会見で方針	1	3	74.80	28	皇太子さま 相談相手望まれる 宮内庁、外部登用を検討	3	5	62.56	2	皇太子ご夫妻に外部から相談役 宮内庁方針	6	7	37.40	38	「気軽に相談できる人を」 皇太子さま 東宮大夫	3	8	99.68
6/15	38	憶測報道へは「沈黙、構わない」両陛 下発言 宮内庁次長明かす	6	9	106.92						30	人格否定関連報道抗議や訂正求めず 天皇、皇后両陛下	4	8	69.36	38	皇太子さま発言事実でない報道 宮内庁に「沈黙守ってかまわない」 両陛下ご意向	2	7	86.40
6/19	38	「病名のつく状態でない」 雅子さま体調、東宮大夫	9	10	30.36											38	雅子さま病名報道 宮内庁「事実と反する」	1	3	41.44
6/22	38	皇室の公務、首相「お忙しすぎる」	5	10	54.00						3	皇太子ご夫妻 自由なく多忙 小泉首相 「同情…静かに見守ってあげた方が…」	8	10	92.16					
6/25											30	「しきりに苦悩する現代的な プリンセス」 米紙が皇室記事を掲載	1	3	84.32					
6/26	34	雅子さま回復に「外出も大切」 東宮大夫が会見	9	10	39.96	29	雅子さま取材自粛要請 東宮大夫 私的外出や静養など	1	4	59.23	30	雅子さまの取材配慮	10	11	22.14	38	雅子さまの外出 取材自粛を要旨 宮内庁	5	7	41.44

資料2 皇太子さまのデンマーク・ポルトガル・スペインご訪問の記者会見の内容

(平成16年5月10日/東宮御所)

〈宮内記者会代表質問〉

(問1) 訪問されるデンマーク、ポルトガル、スペインについての印象と、ご訪問に当たっての抱負をお聞かせください。結婚に臨むデンマーク、スペインの皇太子殿下とはどのような思い出がおありですか。また、今回ヨルダンも訪問が見送られましたが、殿下のお気持ちを話いただければと思います。

(皇太子殿下)

この度、デンマーク、ポルトガル、スペインの3か国からのご招待によりこれらの国々を訪問する運びとなったことを大変有り難く思っております。このうちデンマーク、ポルトガルについては今回が初めての訪問となります。デンマークは童話作家で有名なアンデルセンですとか、それから人魚姫の像、ハムレットの舞台となったクロンボー城、こういったものがすぐに浮かびますけれども、福祉政策の進んだ国であり、また国際人道支援においても大きな役割を果たし、女性の社会への進出が目覚ましい国と聞いております。ポルトガルは我が国が最初に接したヨーロッパの国であり、古くからの両国の交流についてはとても興味があります。スペインについては、私は以前に3回ほど訪問したことがあります。人々の明るさも印象的でしたけれども、アルハンブラ宮殿や城壁に囲まれたトレドやアビラの街並み、ベラスケスやグレコなどの絵画にも深い感銘を受けました。また、先ごろのマドリッドにおける列車爆破事件については多くの方々が亡くなられたり負傷されたりしました。ここに心から哀悼の意とお見舞いを申し上げます。

デンマーク、スペイン両国では皇太子殿下のご結婚式への出席が目的ですので、私たちからのお祝いをお伝えしようと思っております。また、そこに同席される諸外国の王室の方々を始めとした方々との旧交も温めてきたいと思っております。ポルトガルも含めて、今回の訪問が、それぞれの国と我が国との友好親善関係の増進に役立つことを願っております。また、今回は雅子が同行できないのが残念ですが、雅子と二人で将来外国訪問ができることを心から願っております。

デンマークのフレデリック皇太子殿下にお会いしたのは平成9年に殿下が訪日された際に、東宮御所でお昼をご一緒した時です。さらに2年前のオランダの皇太子殿下のご結婚式の際にもお目にかかっていますが、とても明るく気さくな方という印象を

持ちました。所属しておられる軍隊の関係で、潜水夫・フロッグマンとしてのかなり大変な訓練を受けられたことなどを話しておられました。また、スペインのフェリペ皇太子殿下には、私がイギリスに留学中にスペインのマヨルカ島にあるスペインの国王陛下のご別邸にお招きを頂いた折、国王陛下とご一緒に終始温かくおもてなしを頂きました。また結婚後には、平成10年にフェリペ皇太子殿下が公賓として日本を訪問された際に東宮御所でお昼をご一緒に、その後鎌倉方面にもご一緒いたしました。フェリペ皇太子殿下は非常に大きく、2メートル近くおありになって、とても背の高い方でして、鎌倉での昼食会場となった日本家屋が何か小さく感じられました。

ところで、5月1日にEUは25か国に拡大されました。今回の3国は従来からEUの加盟国ですが、これらの国々が新しいEUの中でどのように進んでいくかということも今回感じ取ることができればと思っています。また3国とも伝統的な海運国でありますので、私の専門としています海上交通あるいは河川交通の面からも何か新しい知識が得られればと思っています。

ヨルダンについては、9年前に訪問しておりますけれどもその際は日程を大幅に短縮することとなりながら、当時のフセイン国王陛下を始め大変心のこもったおもてなしを頂きました。その後フセイン国王陛下には残念ながら亡くなられ、ご葬儀に参列させていただいたことも大変感慨深く思い出します。その意味でも、日本で以前にお会いしたこともあるハムザ皇太子殿下のご結婚に伴う祝宴に出席して、そしてお祝いをお伝えすることができればと思っておりましたけれども、今回は諸般の事情で訪問することができずに誠に残念です。お二方の末永いお幸せをお祈りするとともに、お会いする機会を楽しみにしています。

(問2) 今回、皇太子妃殿下のご訪問については、ぎりぎりまで検討されましたが、最終的には見送られました。殿下お一方でご訪問されることに至った経緯、結果についての殿下、妃殿下のお気持ちをお聞かせください。妃殿下の現在のご様子、ご回復の見通しについても改めて伺えればと思います。

(皇太子殿下)

今回の外国訪問については、私も雅子も是非二人で各国を訪問できればと考えておりましたけれども、雅子の健康の回復が十分ではなく、お医者様とも相談して、私が単独で行くこととなりました。

雅子には各国からのご招待に対し、深く感謝し、体調の回復に努めてきたにもかかわらず、結局、ご招待をお受けすることができなかつたことを心底残念に思っていま

す。殊に雅子には、外交官としての仕事を断念して皇室に入り、国際親善を皇族として、大変な、重要な役目と思いながらも、外国訪問をなかなか許されなかったことに大変苦悩しておりました。今回は、体調が十分ではなく、皇太子妃としてご結婚式に出席できる貴重な機会を失ってしまうことを、本人も大変残念がっております。私も本当に残念で、出発に当たって、後ろ髪を引かれる思いです。私たちには、ヨーロッパの王室の方々から、いつも温かく接していただいております、フレデリック、フェリペ両皇太子殿下とは、限られた機会の中ではありますけれども、楽しい思い出が多くあるため、今回のことはとても残念に思っているようです。

雅子の長野県での静養のための滞在は、幸い多くの方々のご協力を得て、静かな中で過ごすことができました。この場をお借りして、協力してくださった皆さんに雅子と共に心からお礼を申し上げます。雅子からも皆さんにくれぐれもよろしくと申しておりました。

長野県での滞在は、とても有益なものではあったと思いますが、まだ、雅子には依然として体調に波がある状態です。誕生日の会見の折にもお話しましたが、雅子にはこの10年、自分を一生懸命、皇室の環境に適応させようと思いつつ努力してきましたが、私が見るところ、そのことで疲れ切ってしまうように見えます。それまでの雅子のキャリアや、そのことに基づいた雅子の人格を否定するような動きがあったことも事実です。

最近公務を休ませていただき、以前、公務と育児を両立させようとして苦労していたころには子供にしてあげられなかったようなことを、最近ではしてあげることに、そういったことを励みに日々を過ごしております。そういう意味で、少しずつ自信を取り戻しつつあるようにも見えますけれども、公務復帰に当たって必要な本来の充実した気力と体力を取り戻すためには、今後、いろいろな方策や工夫が必要であると思われ、公務復帰までには、当初考えられていたよりは多く時間が掛かるかもしれません。早く本来の元気な自分自身を取り戻すことができるよう、周囲の理解も得ながら、私としてもでき得る限りの協力とサポートをしていきたいと思っています。今後、医師の意見によって、公務復帰に向けては足慣らしのために、静かな形でのプライベートな外出の機会を作っていくことも必要であるかと考えています。引き続き、静かな環境を保たれることを心から希望いたします。

〈在日外国報道協会代表質問〉

（問3）この度のヨーロッパご訪問に際し、王室のご婚礼にご参列されますが、我が国デンマークでは王室と国民が近い位置にあり、また女性が王位に就いております。日本では女性が皇位に就くことと皇太子ご一家のご公務のご負担を軽減されることの2つの点について話題になっております。女性が皇位に就くことと皇太子ご一家のご公務ご負担を軽減されることについてデンマークの王室から何か学ばれることがございますか。

（皇太子殿下）

先ほども申しましたけれども、私がデンマークを訪問するのは今回が初めてですけれども、今回はフレデリック皇太子殿下のご結婚式に出席させていただきますので、この機会にデンマークの王室始めデンマークのいろいろな分野について3日間という限られた期間ではありますがいろいろと学べればと思っています。もちろん、王室の制度を始めとして、各国の制度はそれぞれの国の歴史や文化、あるいは、国民の考え方に根ざしたものでありまして、今回の訪問でもいろいろな制度について、その背景となっている歴史や文化あるいは国民の考え方について理解を深めたいというふうに思っています。

なお、公務の在り方については、私は以前にもお話したように、新しい時代にふさわしい皇室像を考えつつ見直していくべきだと考えます。女性が皇位に就くことについては、ここでは回答は控えたいと思います。

〈関連質問〉

（問4）殿下、大変、ちょっと失礼な質問になってしまうかもしれませんが、先ほどお答えになった時にですね、妃殿下のキャリアや人格を否定するような動きがあるとおっしゃいましたが、差し支えない範囲でどのようなことを念頭に置かれたお話なのか質問させていただきたいのですが。

（皇太子殿下）

そうですね、細かいことはちょっと控えたいと思うんですけど、外国訪問もできなかったということなども含めてですね、そのことで雅子もそうですけれど、私もとても悩んだということ、そのことを一言お伝えしようと思います。（宮内庁 2004a）

資料3 皇太子殿下外国ご訪問前の記者会見内容に関してのご説明（6月8日）

私の、ヨーロッパ3ヶ国への訪問前の記者会見での発言に関して、少し説明したいと思います。

記者会見では雅子がこれまでに積み上げてきた経歴と、その経歴も生かした人格の大切な部分を否定するような動きがあった、ということをお話しました。その具体的内容について、対象を特定して公表することが有益とは思いませんし、今ここで細かいことを言うことは差し控えたいと思います。会見で皆さんにお伝えしたかったのは、私たちがこれまで直面してきた状況と今後に向けた話です。

記者会見以降、これまで外国訪問ができない状態が続いていたことや、いわゆるお世継ぎ問題について過度に注目が集まっているように感じます。しかし、もちろんそれだけではなく、伝統やしきたり、プレスへの対応等々、皇室の環境に適応しようとしてきた過程でも、大変な努力が必要でした。私は、これから雅子には、本来の自信と、生き生きとした活力を持って、その経歴を十分に生かし、新しい時代を反映した活動を行ってほしいと思っていますし、そのような環境づくりが一番大切と考えています。

会見での発言については、個々の動きを批判するつもりではなく、現状について皆さんにわかっていただきたいと思ってしたものです。しかしながら、結果として、天皇皇后両陛下はじめ、ご心配をおかけしてしまったことについては心が痛みます。

皆さんに何よりもお伝えしたいことは、今後、雅子本人も気力と体力を充実させ、本来の元気な自分を取り戻した上で、公務へ復帰することを心から希望しているということです。雅子の復帰のためには、いろいろな工夫や方策も必要と考えますし、公務のあり方も含めて宮内庁ともよく話し合っていきたいと思っています。多くの方の暖かいお励ましに、私も雅子もたいへん感謝をしています。雅子が早く健康を回復し、復帰できるよう、私自身も全力で支えていくつもりです。

最後に、雅子の回復のためには静かな環境が何よりも大切と考えますので、引き続き暖かく見守っていただければ幸に存じます。（宮内庁 2004b）

—2005.11.10受稿—